

# 金沢市都市計画マスタープラン

～ 都市計画に関する基本的な方針 ～

## 第4回策定委員会資料

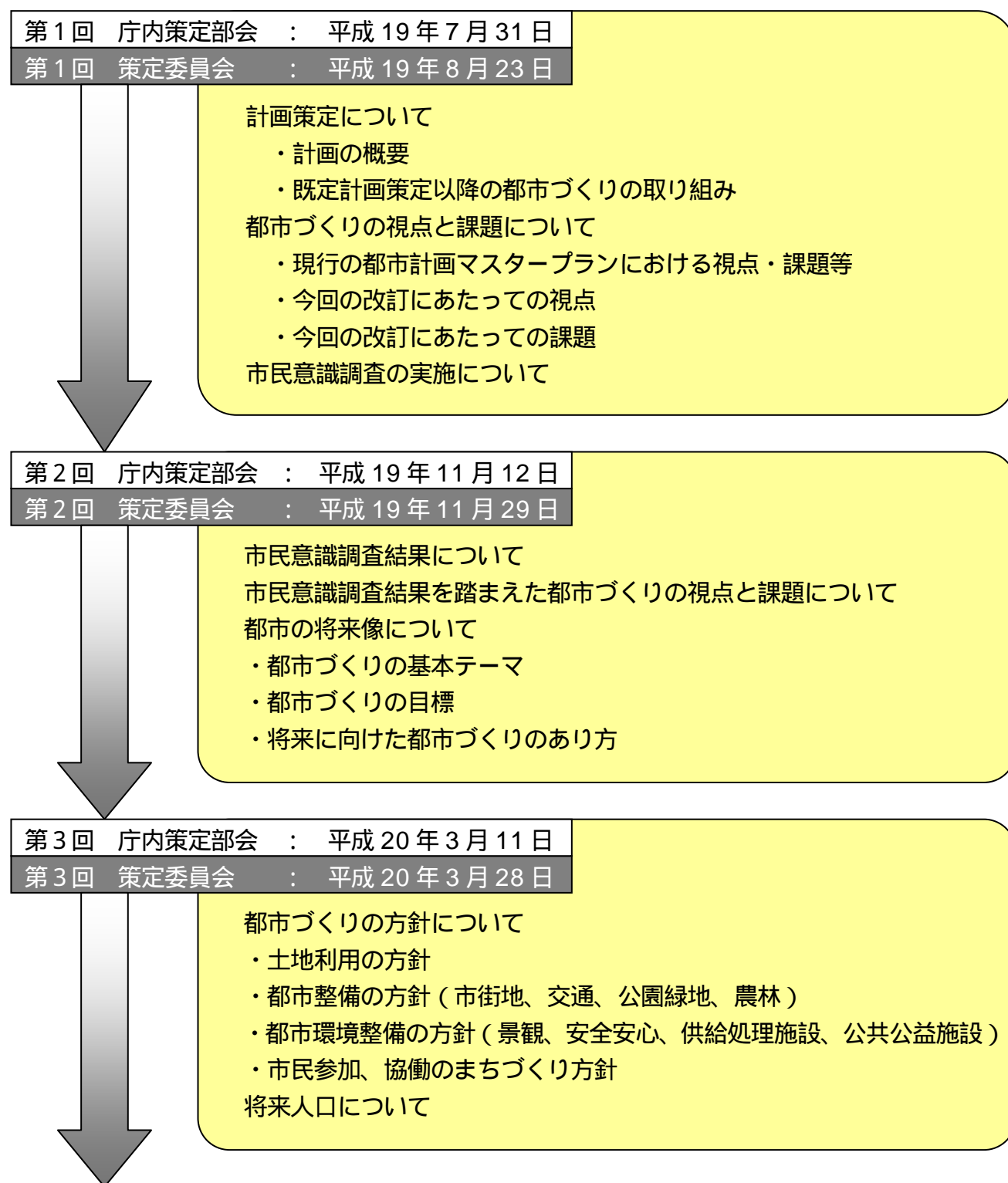
平成20年7月10日

## 目 次

1. これまでの検討経緯	- 1 -
2. 今年度の検討予定スケジュール	- 1 -
3. 全体構想（方針要約抜粋）	
3-1 都市の将来像	
(1) 都市づくりの将来像	- 2 -
(2) 都市づくりの目標	- 2 -
(3) 将来に向けた都市づくりの考え方	- 2 -
3-2 都市づくりの方針	
(1) 土地利用の方針	- 3 -
(2) 都市基盤整備の方針	- 4 -
(3) 都市環境整備の方針	- 5 -
(4) 市民参加・協働のまちづくり方針	- 5 -
4. 重点地区（旧城下町）の現状と課題	
(1) 重点地区（旧城下町）の現状と課題	- 6 -
(2) 重点地区（旧城下町）が目指すべき方向性	- 12 -
5. 地域別の現状と課題	
(1) 地域区分	- 13 -
(2) 地域別の現状、課題と目指すべき方向性	
1. 中央地域	- 15 -
2. 城東地域	- 16 -
3. 犀川南地域	- 17 -
4. 城北地域	- 18 -
5. 東部地域	- 19 -
6. 南部地域	- 20 -
7. 東部丘陵地域	- 21 -
8. 南部丘陵地域	- 22 -
9. 湖南地域	- 23 -
10. 北部地域	- 24 -
11. 駅西地域	- 25 -
12. 臨海地域	- 26 -
13. 西南部地域	- 27 -
14. 西部地域	- 28 -
参考資料	別冊

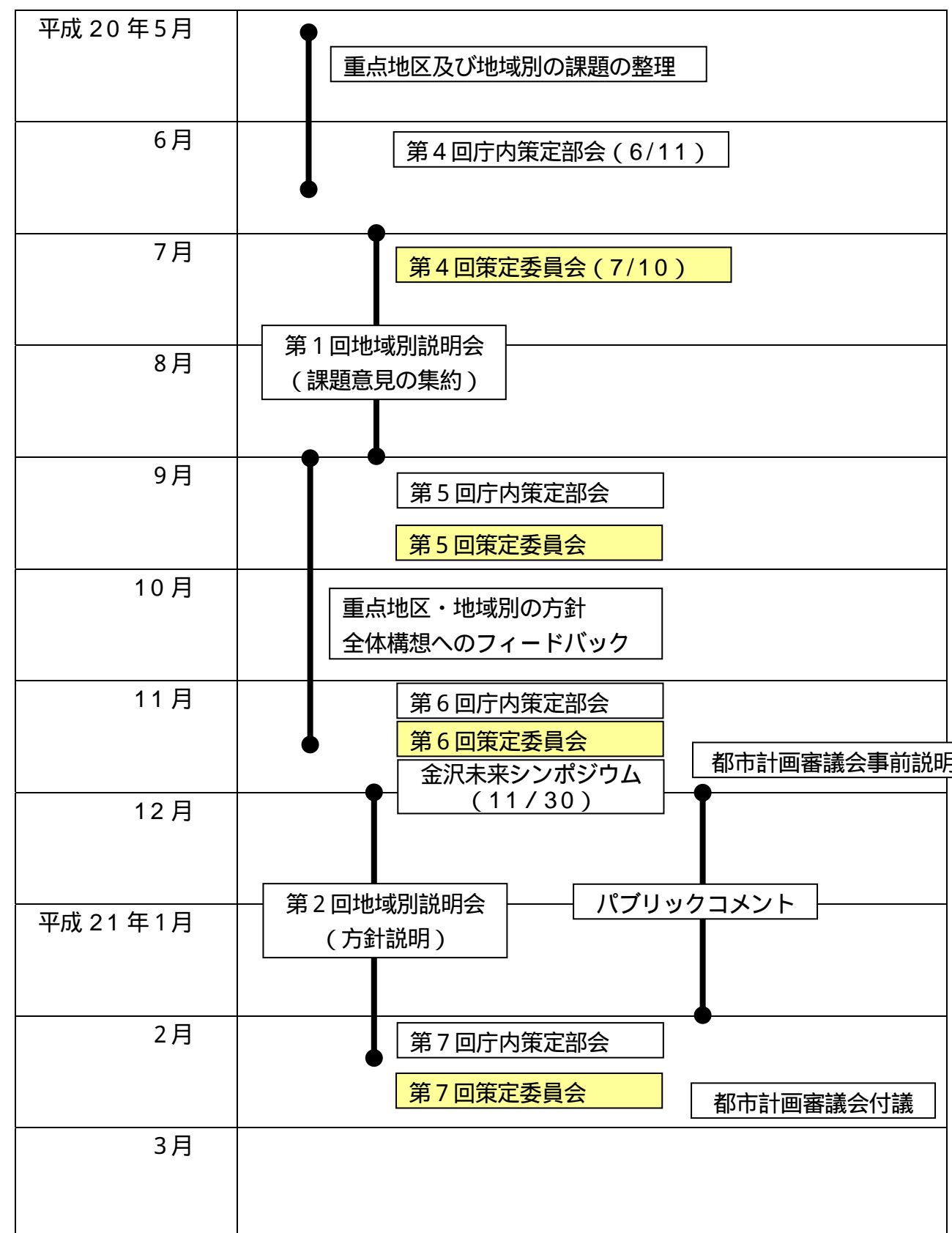
### 1. これまでの検討経緯

金沢市都市計画マスタープラン策定にあたっては、庁内各課が推進する各種まちづくり事業、施策との整合調整を図るために組織する「庁内策定部会」及び、学識経験者や各種団体、市民代表者で組織する「策定委員会」にて、これまでは「全体構想」を中心に、それぞれ3回の審議を経てきました。以下に、これまでの検討経緯を示します。



### 2. 今年度の検討予定スケジュール

今年度の検討スケジュールとしては、現時点において、以下の流れを予定しています。



### 3. 全体構想（方針要約抜粋）

#### 3-1. 都市の将来像

##### (1) 都市づくりの将来像

市民とともに、金沢らしさを守り育て、  
持続可能なまちづくりを進めることにより、  
世界の中で独特の輝きを放つ「世界都市金沢」の実現

##### (2) 都市づくりの目標

- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| 世界に誇れる魅力と活力あるまちづくり      | 自然と共生する環境にやさしいまちづくり     |
| 質の高い暮らしやすいまちづくり         | だれもが安心して暮らせる人にやさしいまちづくり |
| 総合的な交通施策の展開と安全で快適なまちづくり | 災害に強いまちづくり              |
| 歴史・文化・伝統を活かしたまちづくり      | 協働で進めるまちづくり             |

##### (3) 将来に向けた都市づくりの考え方

###### 1) 土地利用構成と主要な都市機能

土地利用区分として、中心市街地、市街地、農業環境、自然環境の4つのゾーン、主要な都市機能として、都心軸、地域中心拠点、産業拠点、学術拠点等の設定を行うことにより、本市の都市づくりの基盤となる土地利用構成を提示します。

###### 2) 都市活動を支える交通機能

都市活動を支える骨格的な交通機能を、主として遠方および隣接する都市間との連絡機能を担う「広域交通ネットワーク」、主として都市内の連絡機能を担う「都市内交通ネットワーク」に区分して設定します。また、歩行者・公共交通を優先するまちづくりを推進する観点から、公共交通重要路線、交通結節点、パーク＆ライド駐車場を位置づけ、人と環境に優しい交通体系を構築していきます。

###### 3) 都市の個性を生み出す歴史・景観

河川や斜面緑地などの自然環境を保全し、世界文化遺産登録を視野に入れた取組との連携・整合を図りながら固有の歴史文化遺産に磨きをかけるとともに、景観条例の基本的対象区域を拡大するなど、市民意識の向上とともに、より良好で魅力ある景観形成を推進し、さらなる個性の確立に努めていきます。

###### 4) 都市を包む水と緑の環境

白山山系から連なる山間地および日本海に面する海岸線、そしてこれらをつなぐ河川を都市環境軸と位置付け、保全活用に努めます。また、市民の憩いの場となる公園緑地などのレクリエーション拠点の整備を推進するとともに、平地・中山間地の農地についても重要な自然環境として保全を推進していきます。

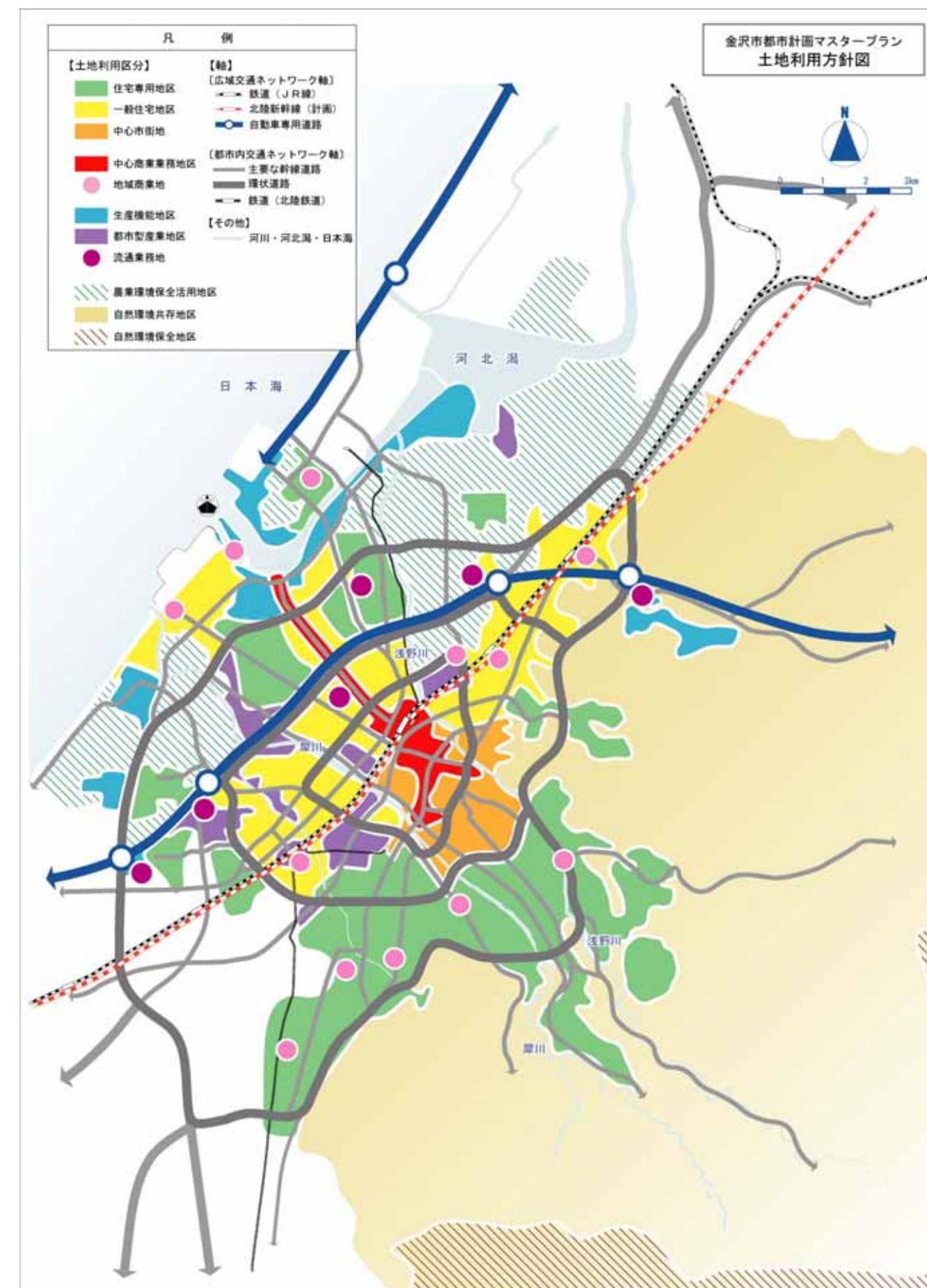
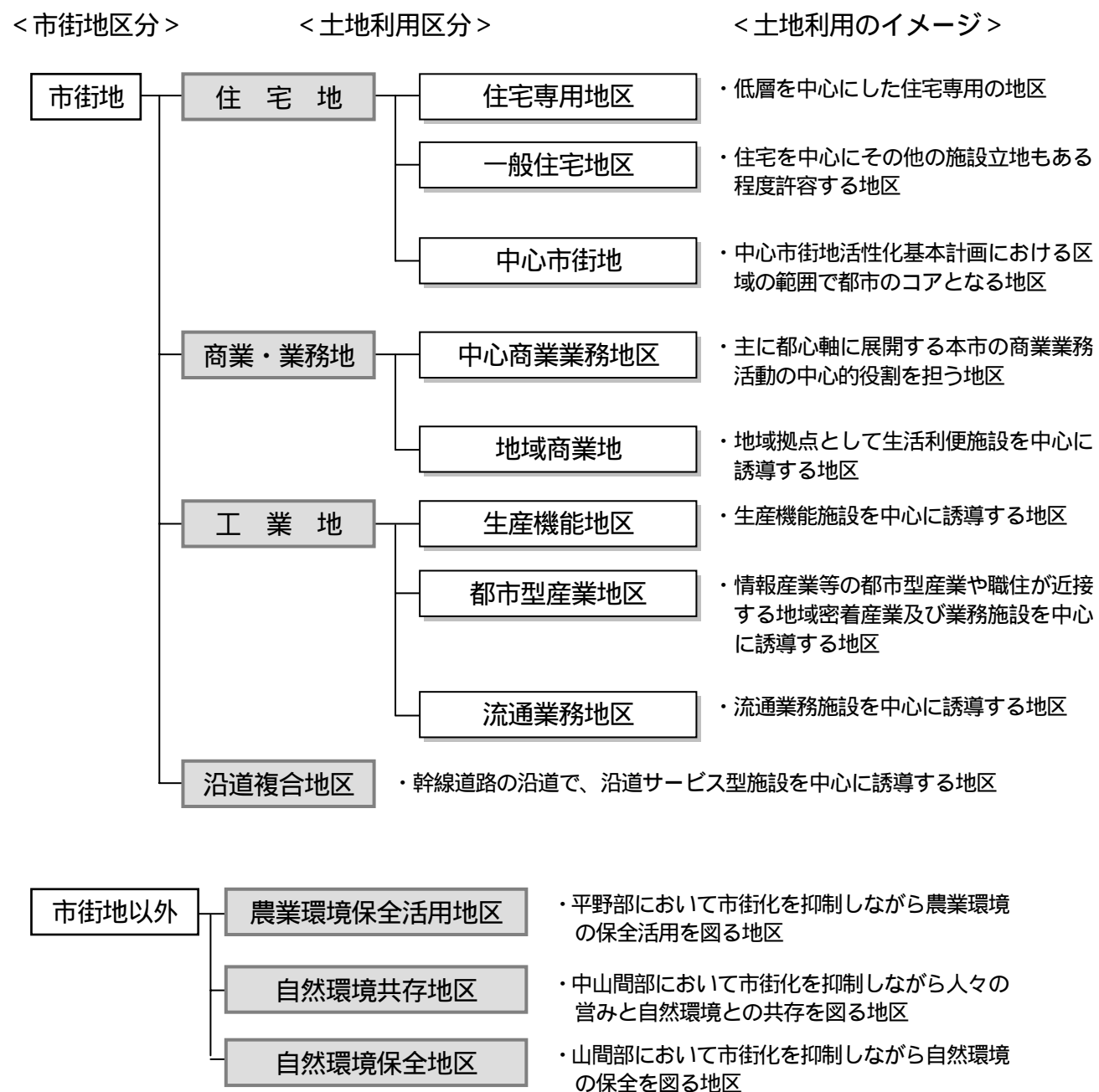




3-2. 都市づくりの方針

(1) 土地利用の方針

- ・金沢独自の地形・風土の骨格を守りながら、自然と都市が調和・共存する成熟した都市形成を促すため、賑わいを創出し、住まい、働き、生産する場としての各種土地利用を計画的かつ適切に配置します。
- ・今後は、原則として市街地の拡散につながるような新たな市街化区域の拡大は行わないものとします。





(2) 都市基盤整備の方針

今後長期に渡る土地利用の適正化と効率化を実現するためには、公共交通主体の交通体系の構築が重要な鍵を握ることを認識し、ハード・ソフト両面において整合のとれた総合的な施策展開を進めていきます。

また、持続可能なまちづくりを目指すため、ライフサイクルコスト低減や施設延命化などの維持管理面にも配慮しながら、世界都市金沢の実現に向けて様々な都市整備に取り組みます。

1) 市街地整備の方針(市街地基盤づくり)

- ・「都心軸」(片町～香林坊～武蔵ヶ辻～金沢駅～金沢港に至る沿道及びその周辺)に、中心的な商業業務機能の集積を図り、公共交通を主体とした交通結節機能の充実を推進します。
- ・基本的に新たに市街化区域編入を伴う住宅地の拡大は行わないものとし、既存市街地については、空き地などの有効活用や各種基盤整備などを進め住環境の向上に努めていきます。
- ・中心的な商業・業務機能と地域及び郊外の生活を支える商業機能を区分し、様々な小売業が活力ある商業活動を持続的に営まれるために必要な整備、支援及び制御を進めます。
- ・新産業の創出と地場産業等の活性化により本市のものづくり産業の活性化を図ることを目的に、効率的な経営が可能となるよう必要な基盤整備を推進します。

2) 交通施設等整備の方針(交通体系づくり)

道路

- ・石川県内の市町から県外、三大都市圏などの各都市を結ぶ体系的な道路ネットワークを形成することにより、物流の円滑化と人的な交流拡大を推進し都市の活性化を図っていきます。
- ・内・中・外の3環状道路と東西南北を連結する放射幹線による放射環状道路ネットワークを本市道路網の骨格と位置づけ、その早期完成と機能拡充を推進します。
- ・生活道路の整備にあたっては、生活者を主役に歩行空間、コミュニティ空間としての機能にも十分な配慮を行い、市民の生活を支える安全・安心な道路としての整備に取り組みます。

公共交通

- ・公共交通を主体とした交通体系の構築を本市の最重要交通政策の一つと位置づけ、その実現に取り組みます。

自転車・歩行者

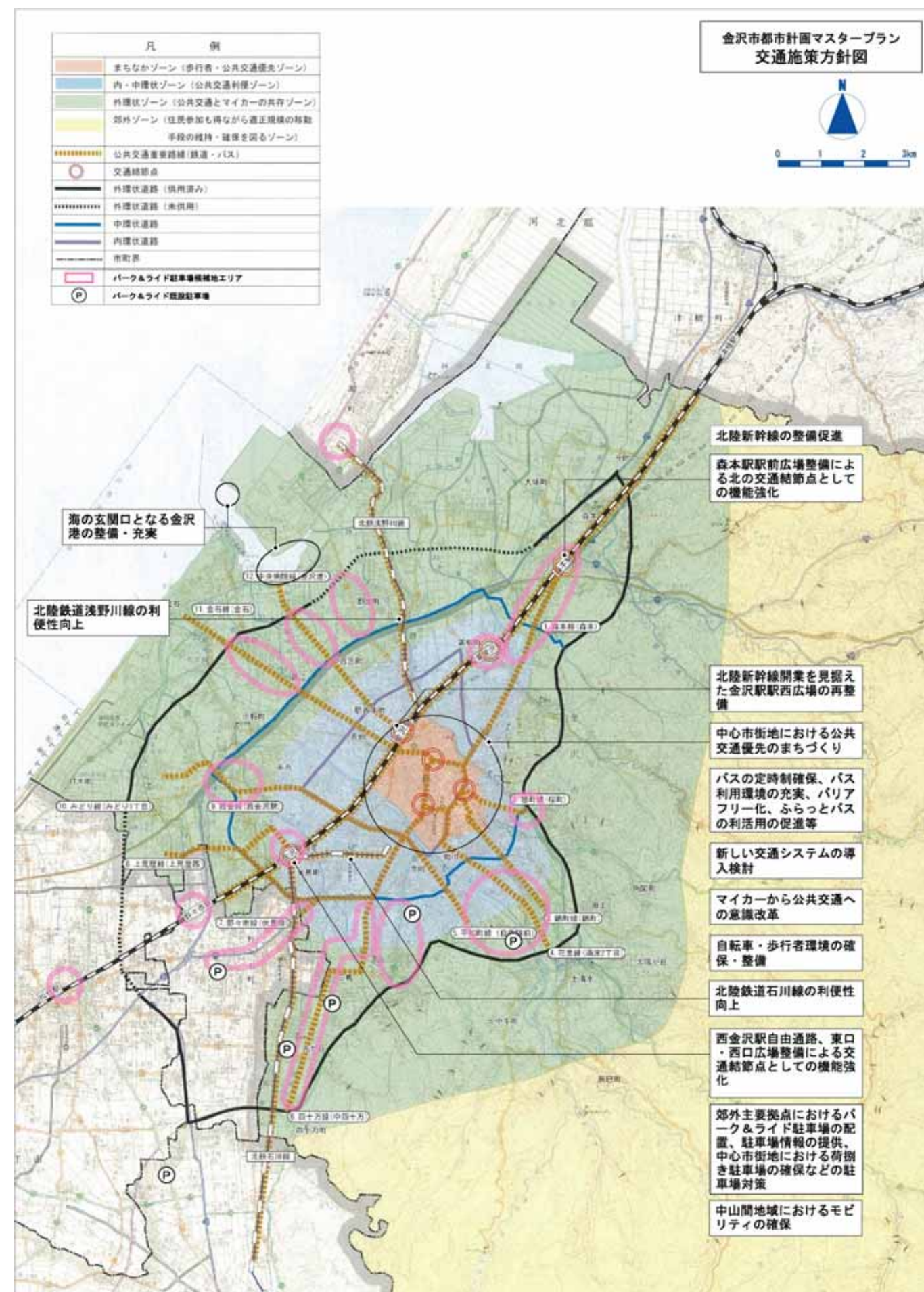
- ・生活者と来街者双方の視点から歩行環境と自転車走行環境の整備を推進していきます。
- ・まちなかの賑わいは人々が歩いてこそ実現するという観点から、まちなかゾーン内では歩けるまちづくりを推進します。

その他交通施設

- ・鉄道駅や主要なバス停、パーク＆ライド駐車場などの交通結節点においては、バリアフリーに配慮し、容易に相互乗り継ぎ可能な交通ネットワークの形成を図ることで、公共交通の利便性向上、市街地内道路の渋滞緩和を図ります。

3) 公園緑地整備の方針(憩いの場づくり)

- ・金沢の個性である豊かな自然(緑)を守るとともに、人と環境にやさしい緑豊かなまちづくりを目指します。地形・自然の特性を読み取り緑の自然環境の保全活用を進めるとともに、人口配置、土地利用、歴史性に配慮して公園や緑地を配置、整備します。また、緑としての農地を見直すとともに市民の協力を得て民有地緑化を推進し、都市全体の緑の環境を向上します。





(3) 都市環境整備の方針

1) 都市環境形成の方針(自然と歴史に根づく景観づくり)

【自然環境保全】

- ・日本海、河北潟、犀川・浅野川などの河川、背後の山間地や丘陵地など、金沢特有の地形条件に基づく自然環境の保全を推進します。

【歴史文化継承】

- ・金沢の個性を形成する歴史的遺産については、その本質的な価値の保存はもとより、景観的な側面からもその価値を認識し、既存の制度に加え新しい制度構築も視野に入れて歴史的風致の維持、向上に取り組みます。

【都市景観形成】

- ・金沢市における都市景観は、市民とともに都市の成長をよりよい方向に導いていくために不可欠な要素と考え、人々の生活に根ざしたものであることに配慮しつつ、景観の持つ公共性に対する市民の理解と協力の獲得にも力を注いでいきます。
- ・景観形成は都市環境の改善の重要な要素であることから、今後は、新たな景観条例による区域の拡大、見直しを進め、より効果的で分かりやすい景観誘導の仕組みづくりに取り組んでいきます。

2) 安全・安心な都市づくりの方針(安全安心な環境づくり)

- ・市民の安全・安心な暮らしを確保するため、災害に強い都市づくりを積極的に推進するとともに、災害時等に備えた実践的・体系的計画の策定、見直しを進めます。
- ・地球温暖化等の環境問題への対処として、環境負荷の低減やエネルギー資源の有効活用に積極的に取り組み、市民・事業者との協働により環境意識の向上を図ります。

3) 主な供給処理施設整備の方針(生活基盤づくり)

- ・上下水道、ガスについては、整備の促進、耐震補強を進め安定供給を図り、施設の更新等を合理的かつ効果的に進めます。
- ・ごみ減量の啓発・指導をはじめ、民間リユースの拡大、リサイクルの促進、事業系廃棄物の資源化の促進など、市民、事業者、行政の協働による循環型社会を推進します。

4) 公共公益施設整備の方針(市民生活を支える施設づくり)

医療・高齢者福祉施設

- ・住み慣れた地域で暮らし続けるために、地域に密着した小規模多機能型居宅介護施設をはじめ、認知症の方を対象としたグループホーム等を日常生活圏域ごとに整備を促進します。

学校施設

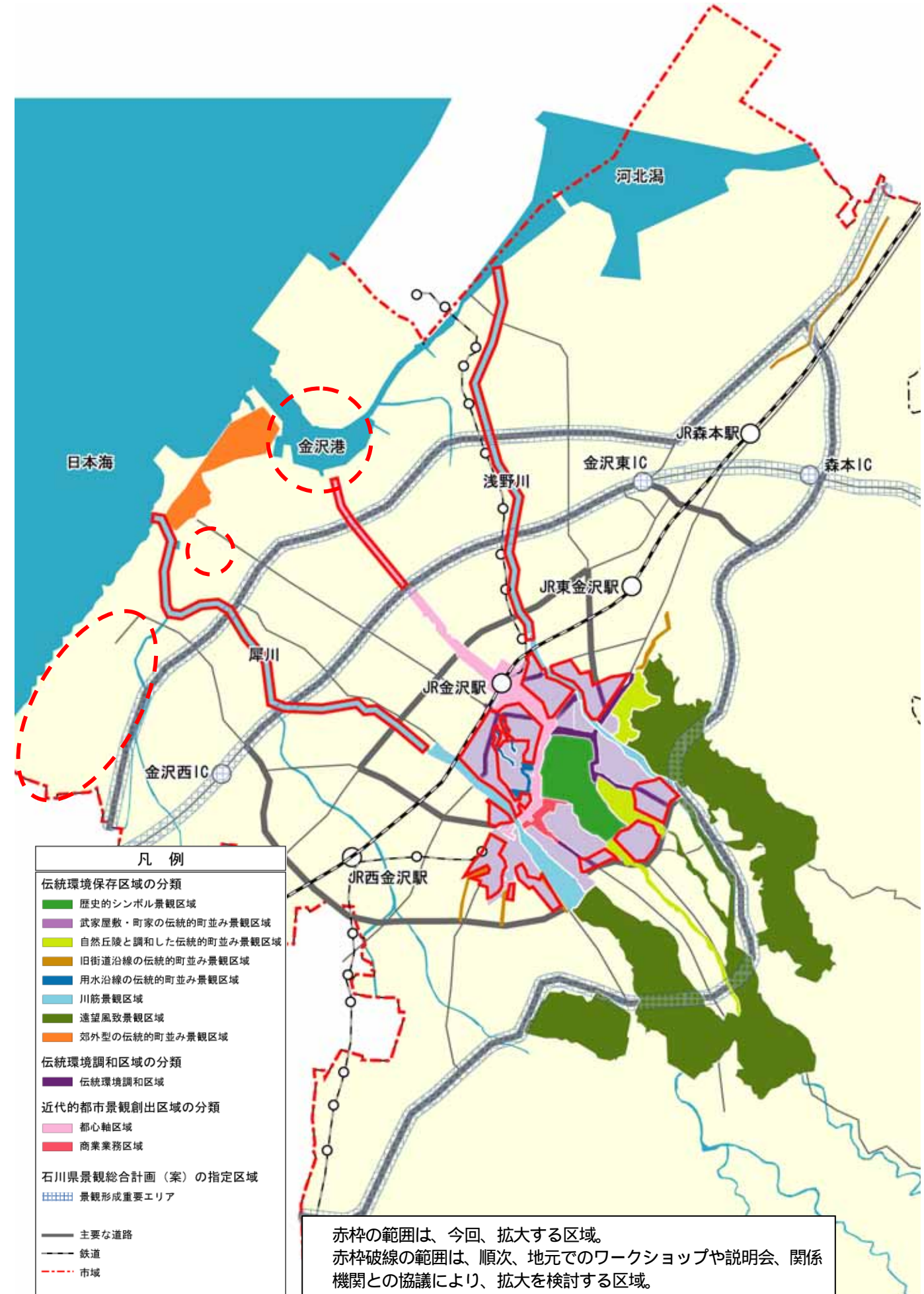
- ・学校施設は、児童・生徒が1日の大半を過ごす生活の場であると同時に、地域住民等の緊急避難場所の役割を果たすことから、学校建物の耐震性能を確保し、防災対策を促進します。

生涯学習施設の整備、充実

- ・社会の変化に対応できる学習体制の拡充と、市民の多様な学習ニーズに対応した学習機会を提供し、市民一人ひとりの生きがいある暮らしを実現するための支援を行います。

(4) 市民参加・協働のまちづくり方針

市民と行政が理解し合い、市民参加と協働で進めるまちづくりの実現を目指して、積極的な情報公開、各種制度の導入や支援制度の活用などの取り組みを行っていきます。





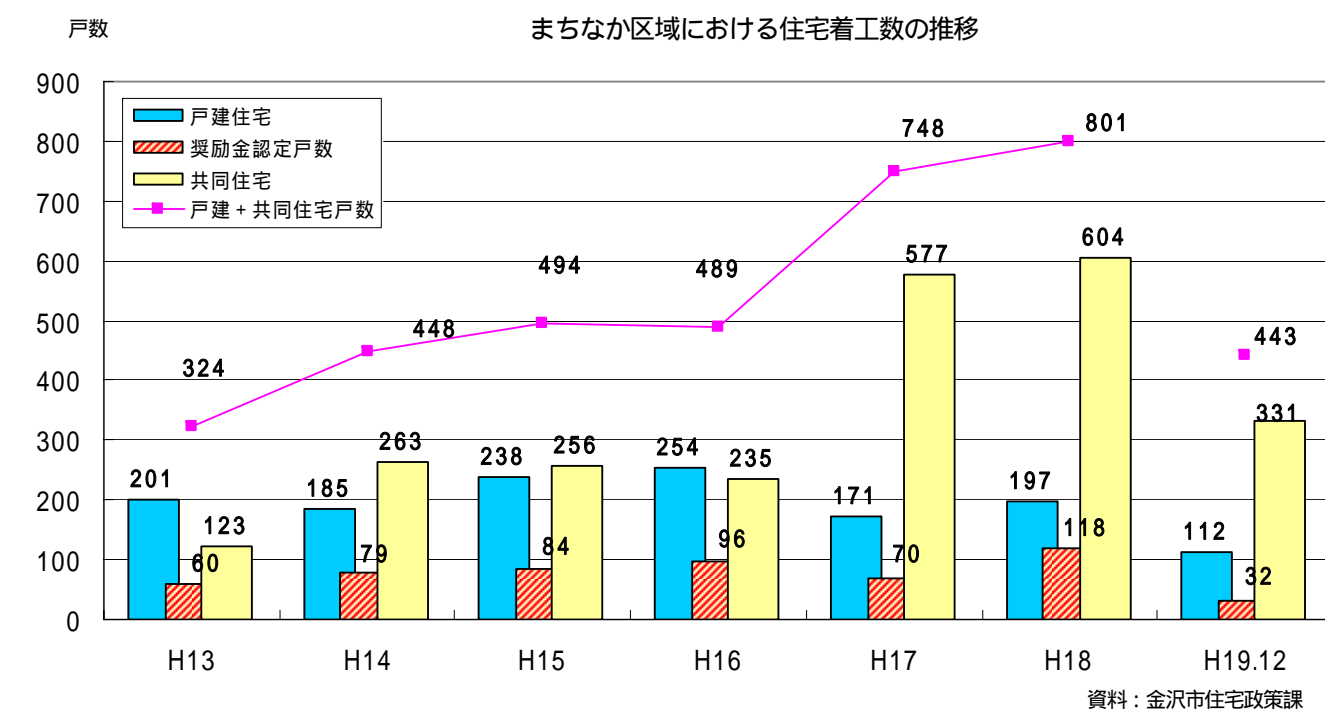
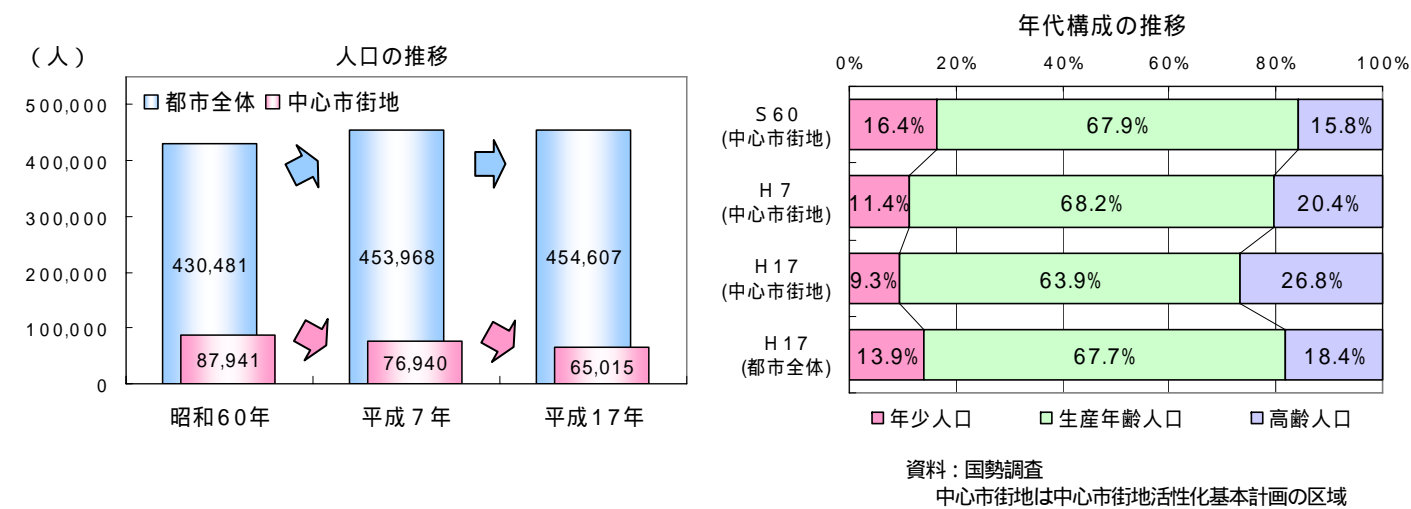
#### 4. 重点地区（旧城下町）の現状と課題

藩政期からの都市構造を今に残す金沢の旧城下町は、「金沢らしさ」を最も強く表現するとともに、商業業務機能の中心的役割を果たす重要な地区です。当該地区の整備のあり方は、将来の金沢市の存立に大きく関わるとともに、周辺の市街地整備にも大きな影響を与えることから、ここでは重点地区として捉えてまちづくりの方針を設定します。

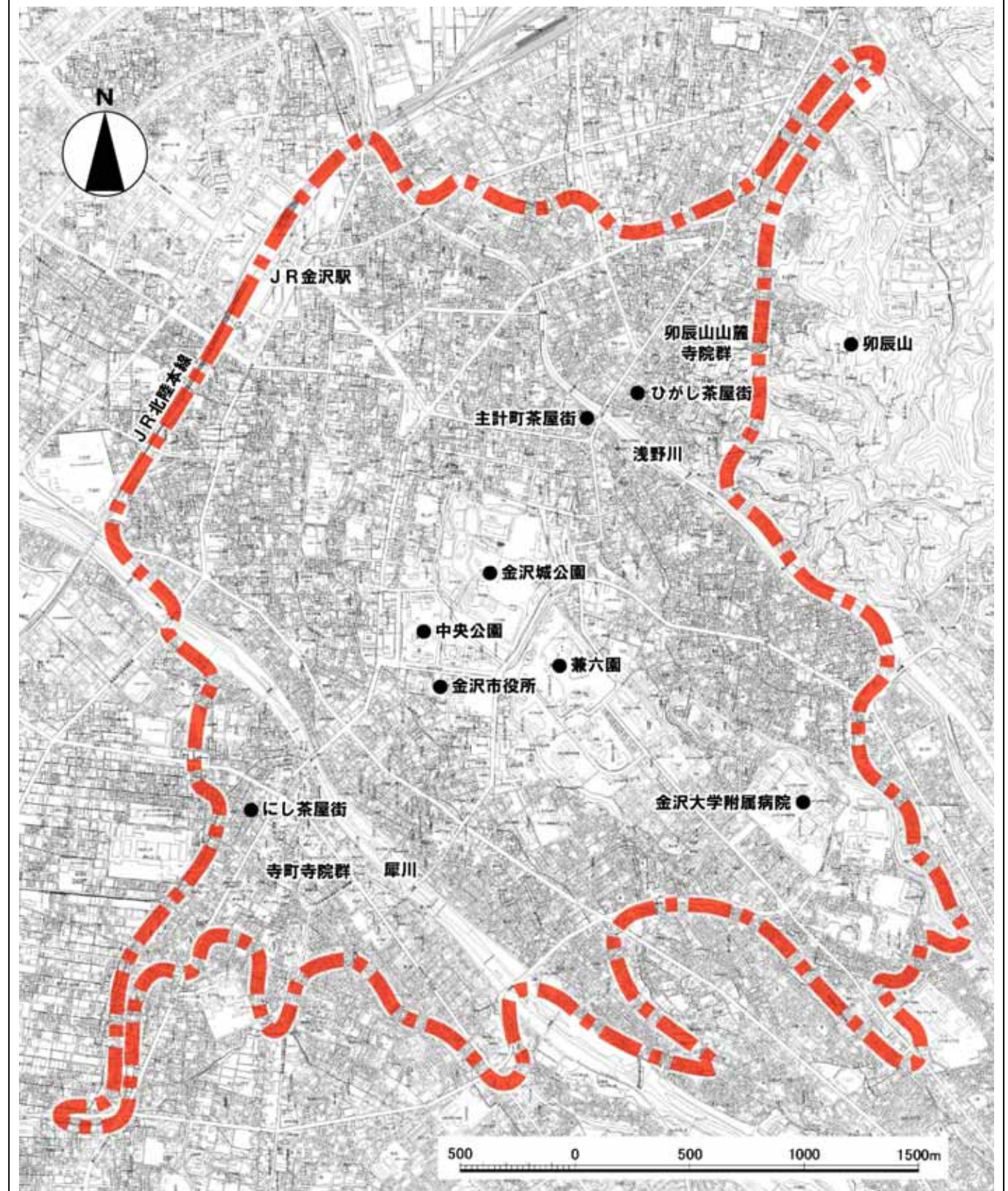
##### (1) 重点地区（旧城下町）の現状と課題

人口減少と高齢化が進行しています。

人口減少と居住人口の高齢化の進展により、当該地区の活力が低下しつつあります。このため、まちなか居住の推進による定住人口の増加や、北陸新幹線開業を見据えた交流人口拡大への取り組みを推進し、旧城下町の賑わい再生を図る必要があります。



重点地区（旧城下町）の概ねの範囲

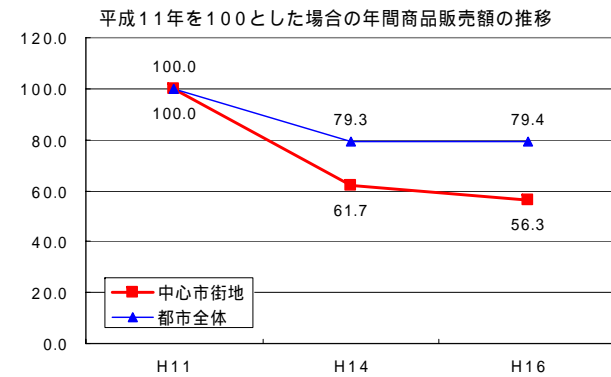




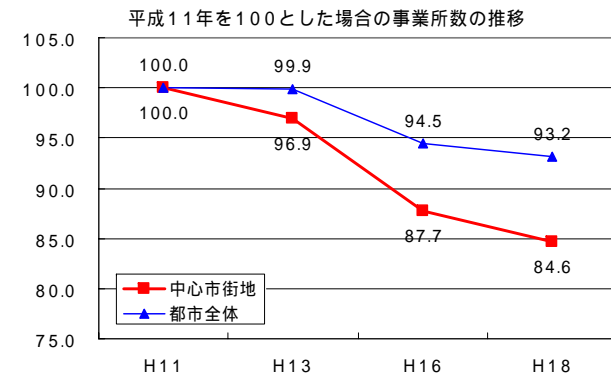
商業・業務機能の求心力が低下しています。

大型小売店の郊外展開により、来街者の減少による小売店舗の商品販売額の減少や空き店舗が増加しており、当該地区の商業活力が低下しています。

また、南町、香林坊、金沢駅周辺等におけるオフィス空室率も全般的に高く、都市機能の拡散と空洞化が進みつつあり、活力ある商店街や都心ビジネスの形成が課題となっています。



資料：商業統計  
中心市街地は国勢調査統計区1～4の区域



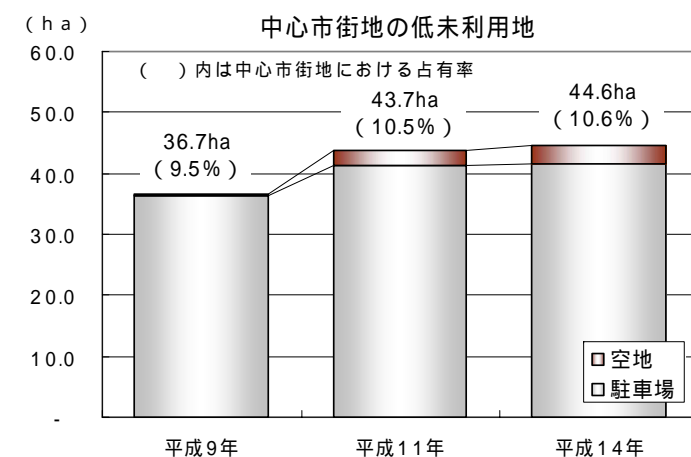
資料：事業所・企業統計  
中心市街地は国勢調査統計区1～4の区域  
民営のみを対象

低未利用地(空地・駐車場)が増加しています。

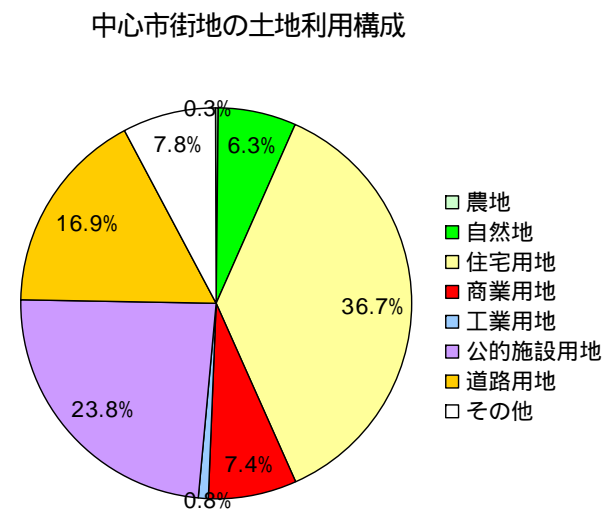
当該地区の土地利用は、全体の約37%を住宅地が占めるほか、公的施設用地(道路用地を除く)が約24%と非常に高いことが特徴となっており、商業用地は約7%です。

住宅や店舗等の建物除去に伴って、空地や青空駐車場等の低未利用地が増加しており、これらの有効活用を図るとともに、再開発等による土地利用の有効活用が求められます。

また、歴史的都市構造、文化的環境を大切にしながら、保全と開発の調和に配慮した土地利用の展開が必要です。

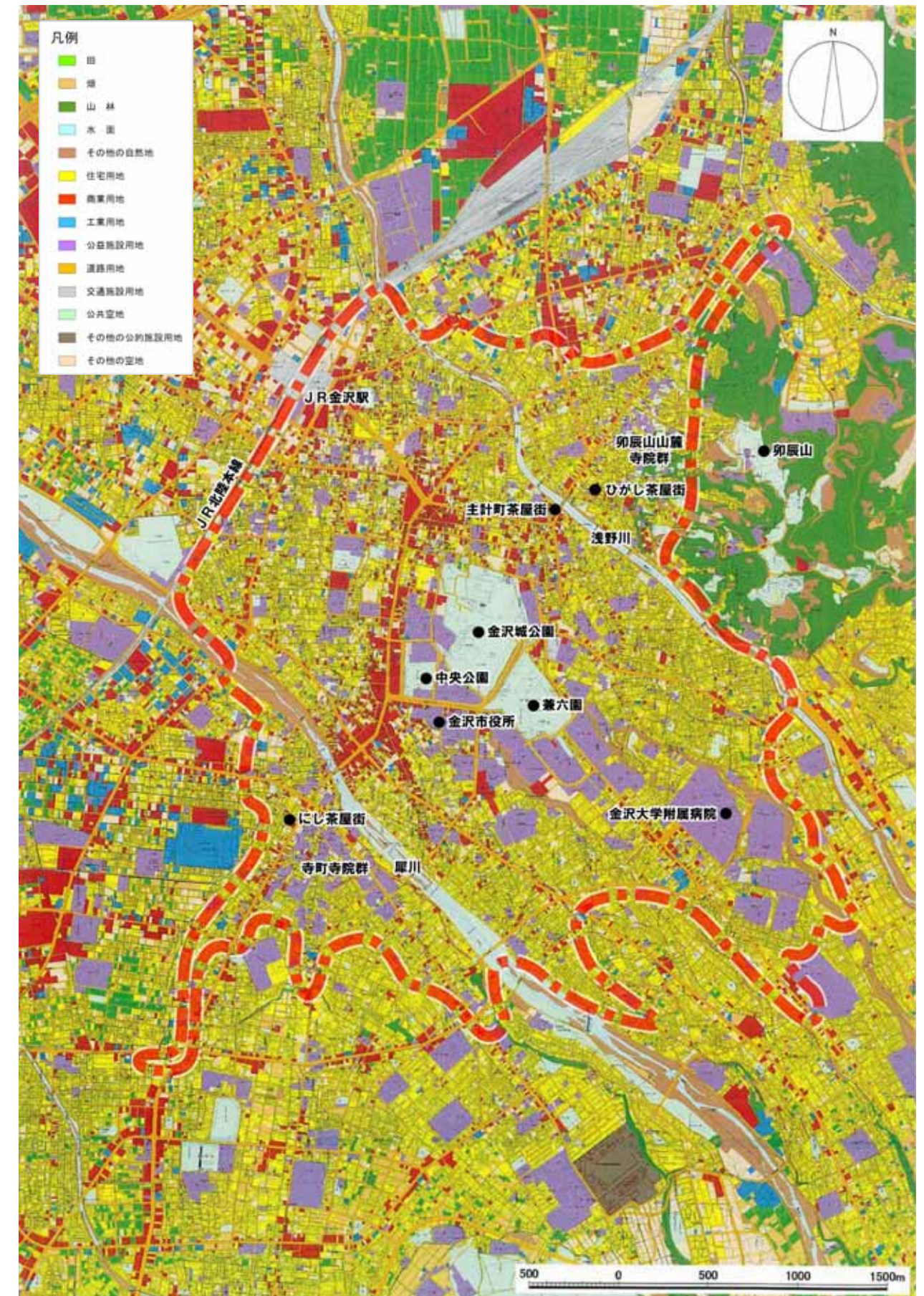


出典：金沢市中心市街地活性化基本計画



資料：金沢市都市計画基礎調査  
中心市街地は中心市街地活性化基本計画の区域

重点地区(旧城下町)の土地利用現況図





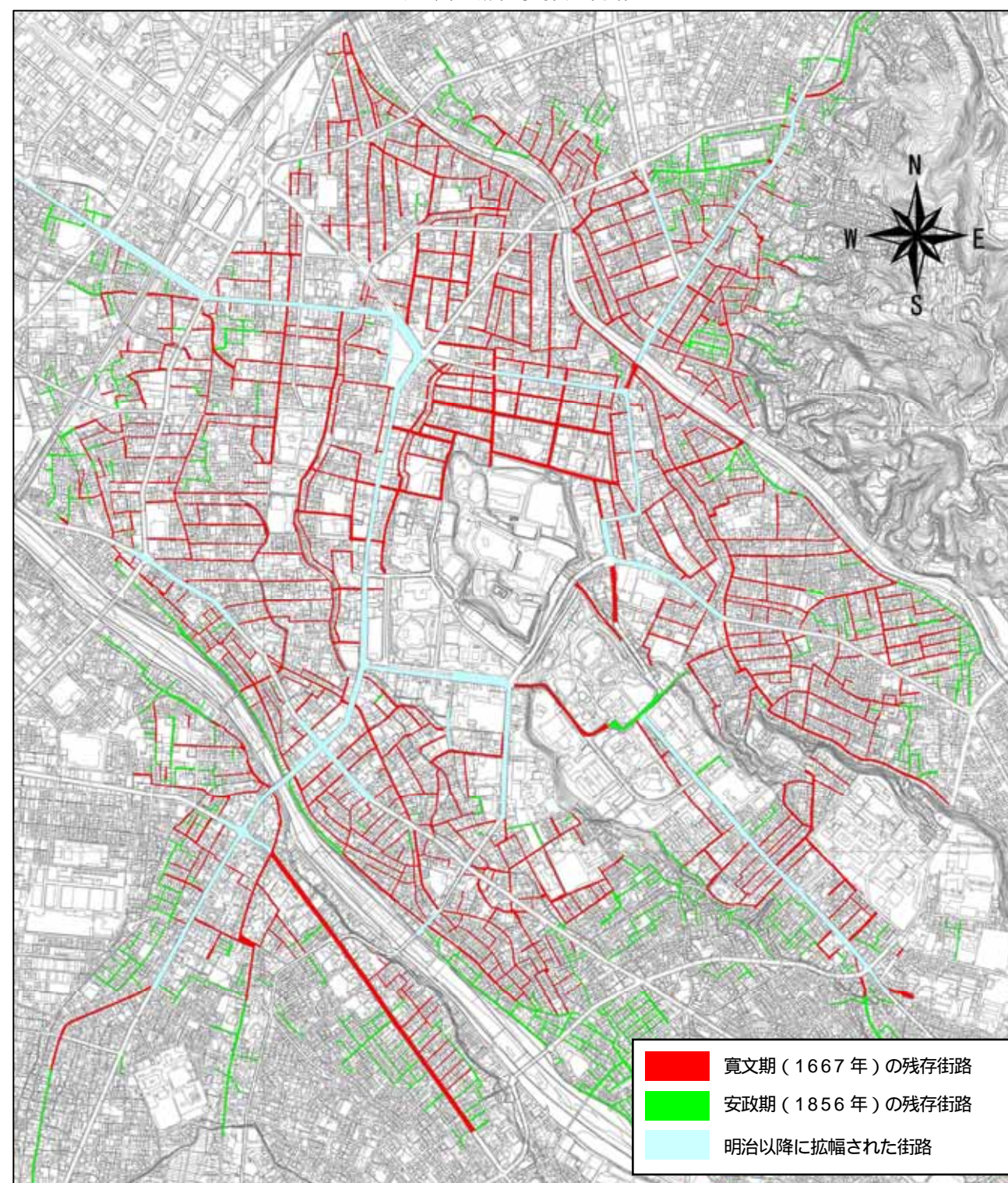
交通渋滞が日常化しているものの道路整備には限界があります。

外環状道路の整備によって当該地区への通過交通の流入は減少しつつありますが、交通手段は依然として車両交通が主流であり、朝夕の交通渋滞が慢性化しています。

しかしながら、城下町特有の道路構造のため、道路・交通基盤の整備には限界があり、限られた道路容量を有効に活用するために、輸送効率の高い公共交通の充実が求められています。

このため、地域住民及び来街者の移動手段として公共交通の利便性を高めるとともに、歩ける環境づくりを進める必要があります。

今に残る城下町時代の街路



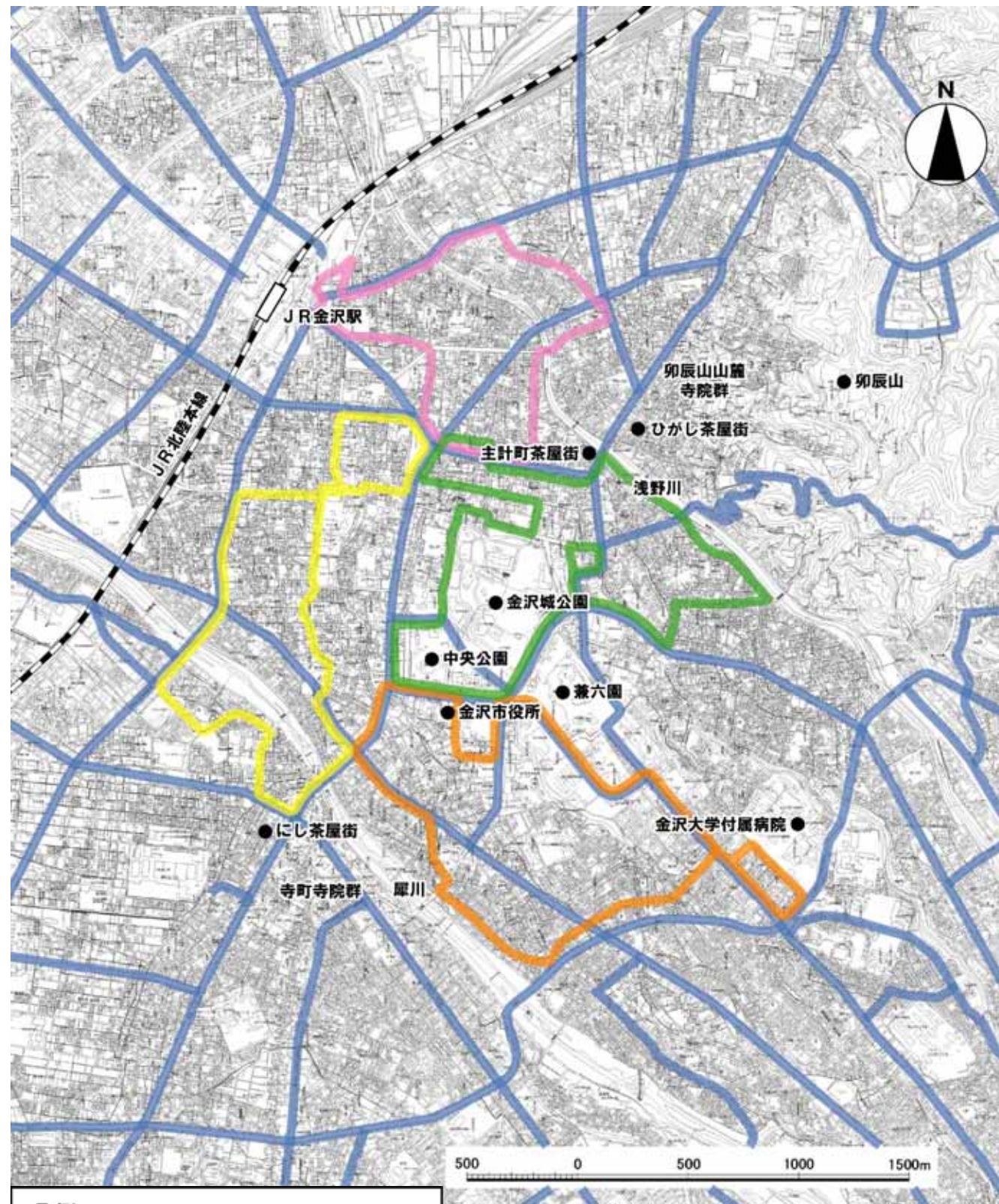
出典：金沢工業大学 増田教授

重点地区（旧城下町）の都市計画道路整備状況図





バスルート図



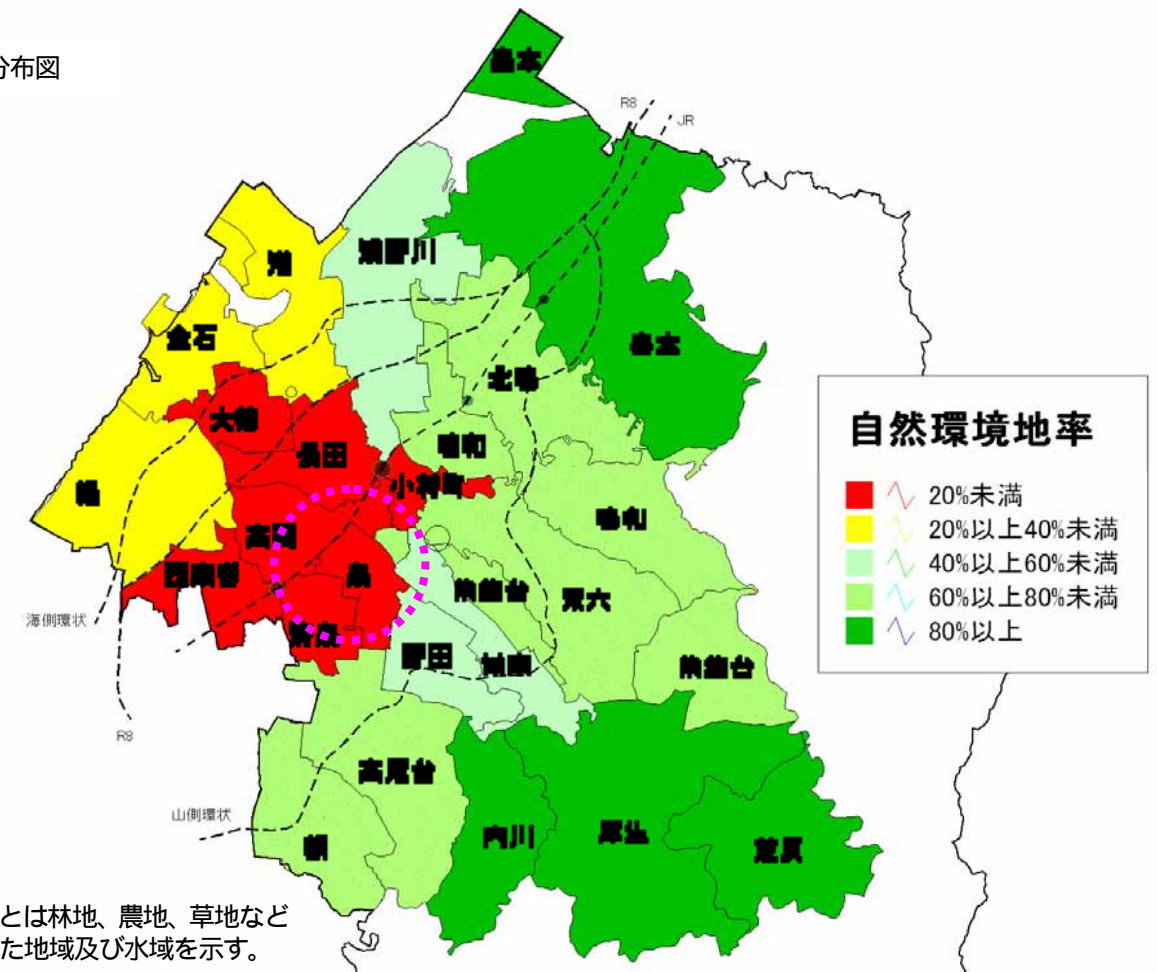
- 凡例
- 民間路線バスルート
  - ふらっとバス雌花ルート
  - 材木ルート
  - 菊川ルート
  - 長町ルート(予定)

緑の空間が不足しています。

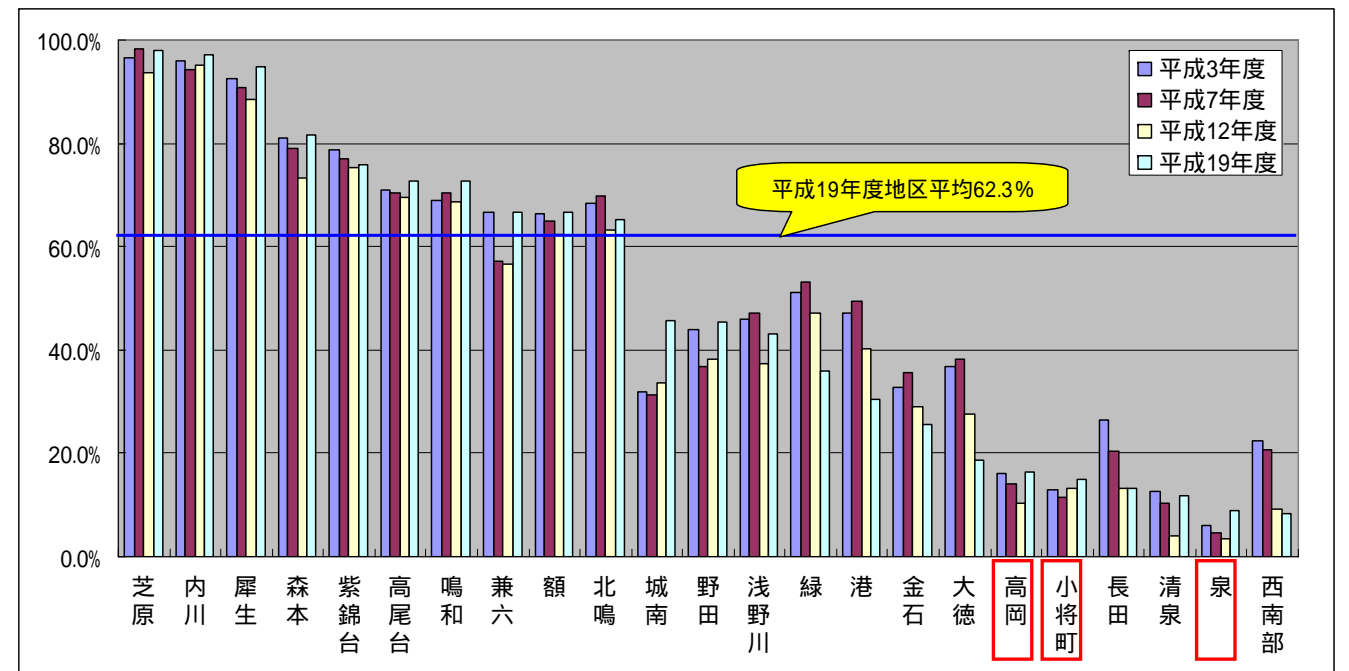
本市には、市街地の背景緑地となっている卯辰山丘陵、小立野段丘の斜面緑地など、多くの自然の緑が残されていますが、当該地区では、全体的に緑地が不足しています。

このため、都市にうるおいを与えるのみならず、空気の浄化や防音、防災など、多くの役割を果たす緑地を、まちなかに積極的に創出していく必要があります。

自然環境地率分布図



自然環境地とは林地、農地、草地など緑に被われた地域及び水域を示す。



資料：金沢市緑と花の課

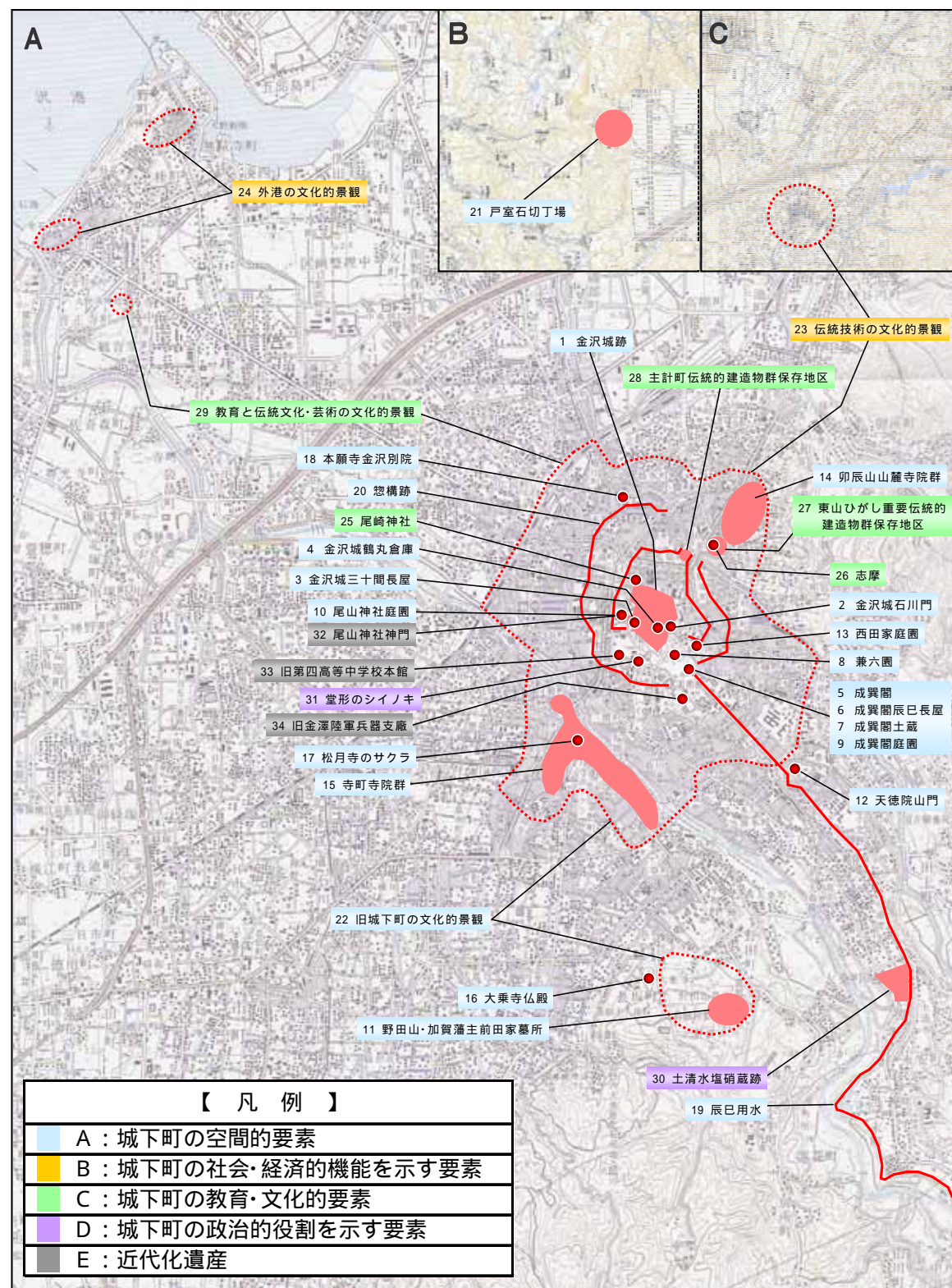


歴史・文化的価値の高い城下町の遺産が集積しています。

当該地区には、近世城下町の特徴的な都市構造とその上に残る近世・近代の多くの文化遺産が良好に保存されており、近世日本の城下町を代表する都市遺産として顕著な普遍的価値を有しています。

金沢市では世界遺産登録を目指した取り組みを進めており、遺産群の歴史・文化的価値の向上のためにも、さらに魅力を高めていくことが必要です。

金沢市の主要な文化遺産



資料：金沢市歴史建造物整備課

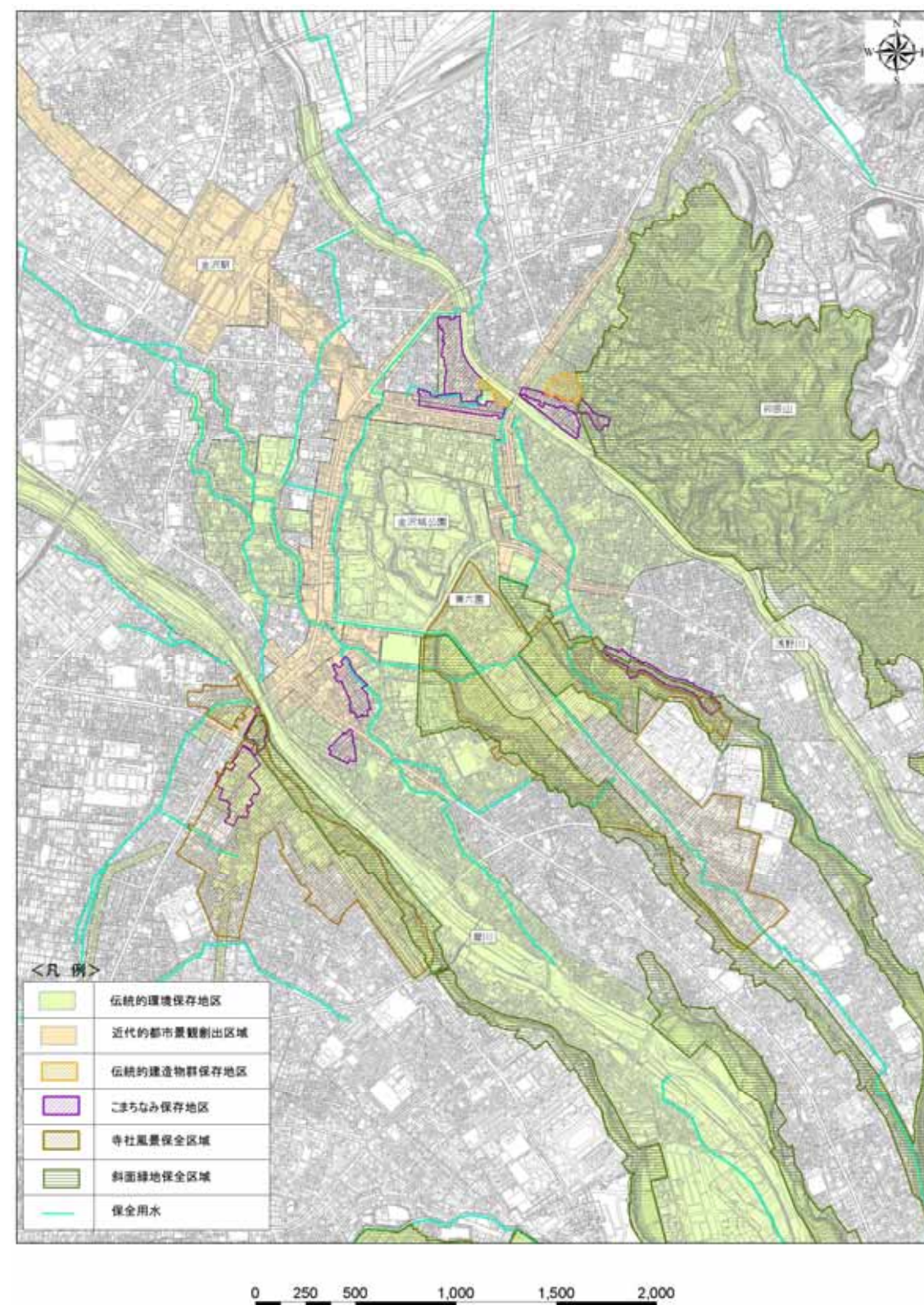
都市景観や街並みが変わりつつあります。

当該地区には、城下町の歴史・文化的資産を活かした伝統的都市景観が形成されていますが、近年は、歴史的街並みの変容や歴史的景観資源が減少しつつあります。

また、都市開発の進行に伴って、魅力に欠ける景観が見受けられるようになってきました。

このため、伝統的都市景観を継承しつつ、旧城下町地にふさわしい魅力ある都市景観の創出が必要です。

旧城下町の景観形成に向けた主な区域指定図





昭和25年以前の建築物分布



昭和25年以前建築物分布図

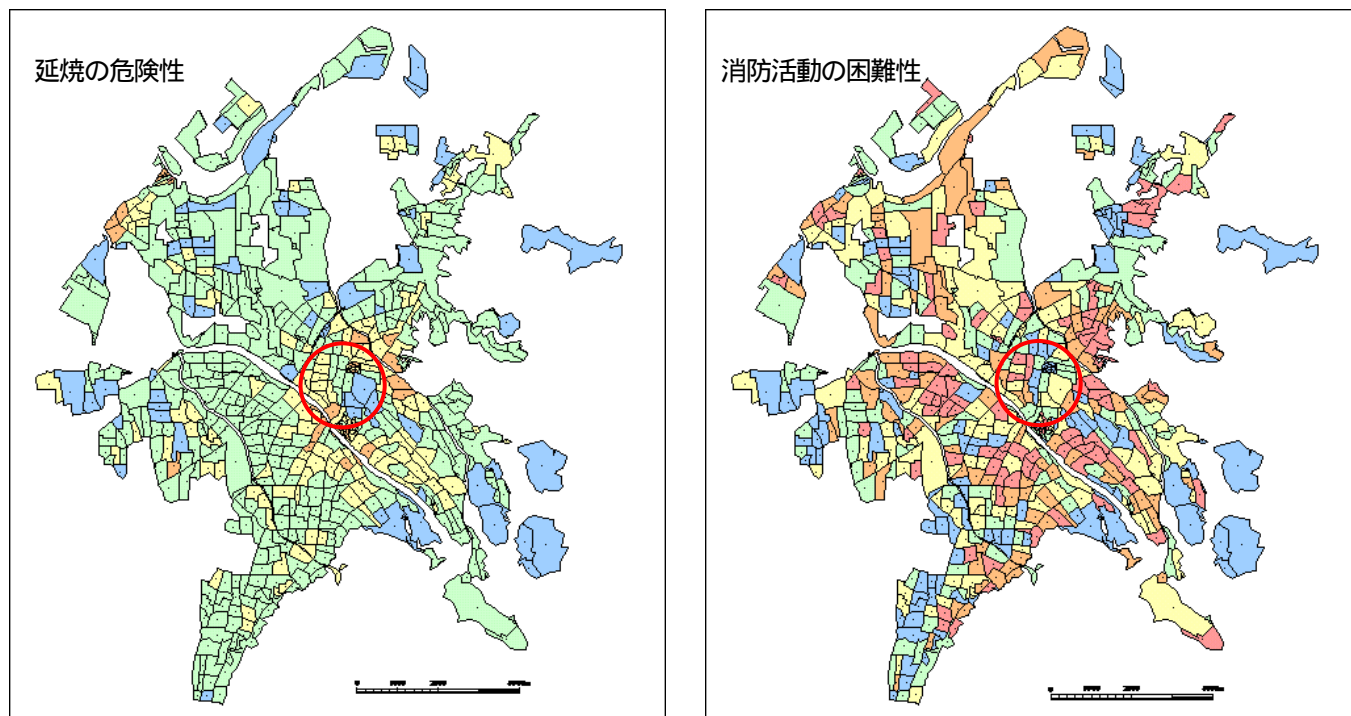


地震災害による防災上の危険性が高くなっています。

当該地区においては、木造老朽建物の密集街地の形成をはじめ、狭隘で複雑な道路構造、緑地の不足等により、防災上の危険性が高くなっています。

このため、延焼遮断空間の創出や老朽建築物の耐火・耐震化の促進等により、密集市街地の防災性向上を促進する必要があります。

災害危険度判定調査結果

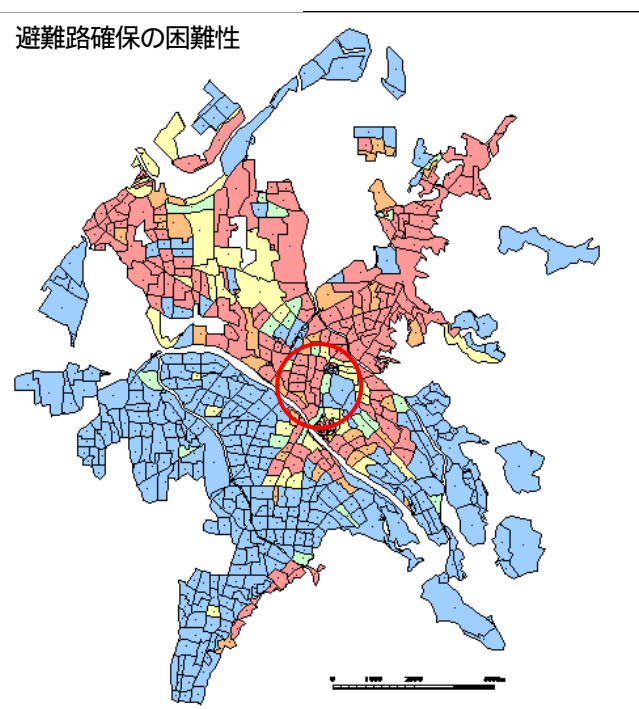


<評価の方法>

各町で空き地や耐火建築物の建築面積の割合（不燃領域率 < 70%以上 >）や、各町全体に占める木造建築物の建築面積の割合（木防建べい率 < 40%以上 >）。

<評価の方法>

建築物が倒壊しても消防自動車が行き通れる道路（幅員 6m 以上）に面する消防水利から、半径 140m 以上離れた範囲の割合。



凡 例	
危険度	災害に対する危険度
青	低い
黄緑	やや低い
黄	普通
赤	やや高い
赤	高い

<評価の方法>

道路幅員と沿道建築物の老朽度（昭和 46 年を基準）、地盤の液状化（震災アセスメント調査による）の危険性を勘案。

金沢市の公共施設の約 4 分の 1 が集積しています。

当該地区には、金沢市の約 4 分の 1 に当たる公共公益施設が密度高く集積しており、生活する場として優れた条件を備えています。

今後はさらに、お年寄り等にも利用しやすい生活関連施設の充実を図り、郊外とは違うまちなかの暮らしやすさをアピールし、まちなか定住の促進につなげて行くことが必要です。

公共公益施設の集積状況

施設分類	金沢市	中心市街地(占有率)
主要公共施設(国、県の機関)	13	5 (38.5%)
文化・教養施設(図書館等)	19	10 (52.6%)
美術館・記念館・資料館等	25	18 (72.0%)
スポーツ施設(体育館等)	42	1 (2.4%)
病院	49	17 (34.7%)
福祉・保健施設	34	7 (20.6%)
小学校	59	9 (15.3%)
中学校	24	3 (12.5%)
高校	21	3 (14.3%)
大学	7	1 (14.3%)
市民センター・市民サービスセンター	15	2 (13.3%)
公共公益施設 合計	308	76 (24.7%)

出典：金沢市中心市街地活性化基本計画

地域コミュニティが弱体化しつつあります。

当該地区では、長い歴史の中で、町内活動や消防団活動、善隣館活動など公私協働のコミュニティ活動が展開されてきました。

しかし、近年の少子高齢化の進行や生活スタイル・価値観の多様化等により、地域コミュニティが弱体化しつつあり、多様なコミュニティ活動の活性化等を通して、地域コミュニティの再生を図る必要があります。

(2) 重点地区（旧城下町）が目指すべき方向性

旧城下町の現状と課題を踏まえ、都市全体から見て重点地区（旧城下町）が目指すべき方向性を以下のように考えます。

【重点地区（旧城下町）が目指すべき姿】

城下町“金澤”の伝統文化を背景とした魅力が磨き上げられ、公共交通の利便性が高い中で、人々が安全安心に暮らし、賑わいと交流が育まれる場

【将来像実現のためのポイント】

- ・魅力的で活力あふれる商業・業務機能の再生
- ・新幹線開業を活かして広域的な交流が育まれるまちづくりの推進
- ・旧城下町の良さを活かした住環境づくりの推進
- ・少子高齢社会に対応した安全、安心な生活基盤づくりの推進
- ・歩行者・公共交通を優先した環境にやさしいまちづくりの推進
- ・古いものと新しいものが調和する美しいまちづくりの推進



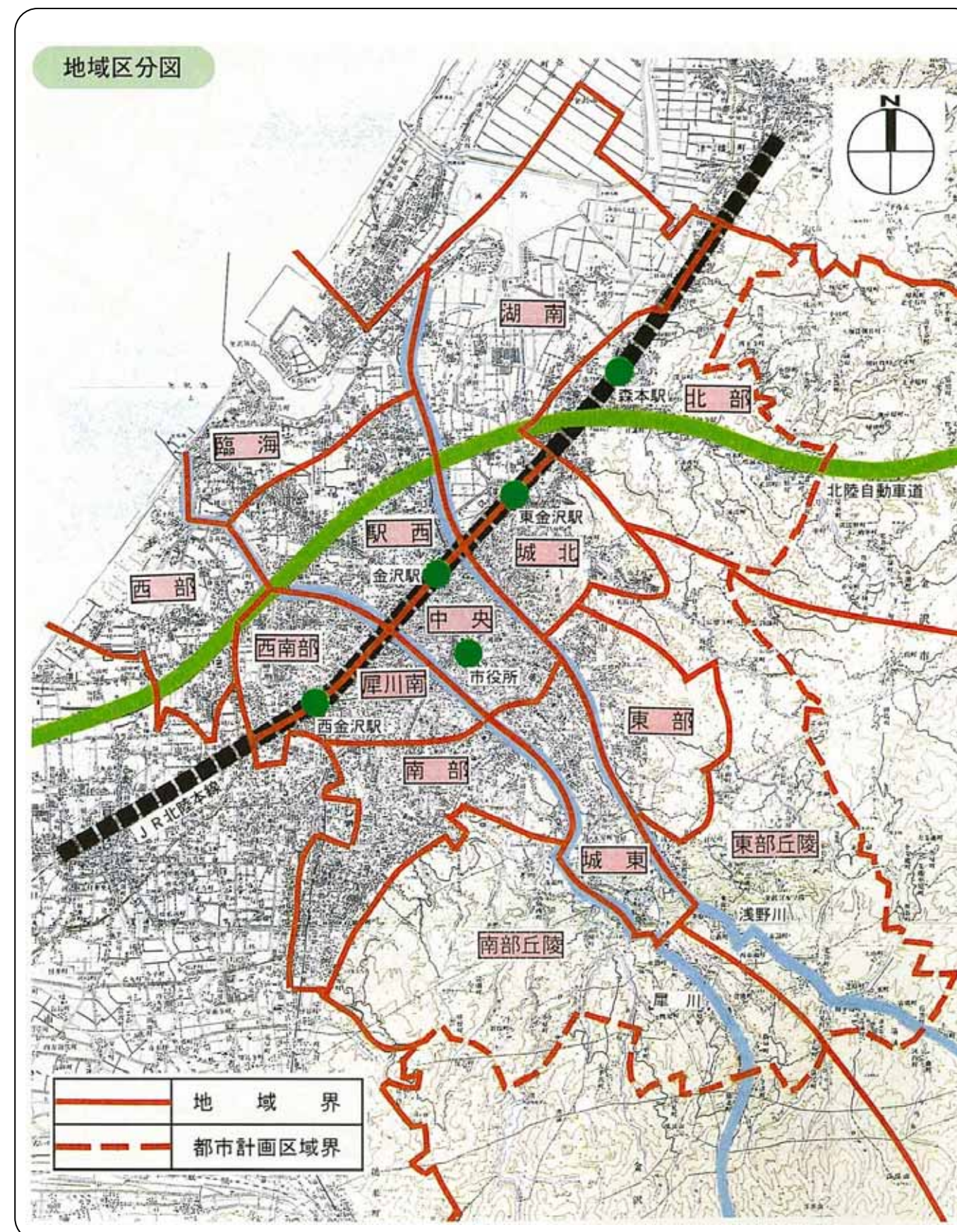
## 5. 地域別の現状と課題

### (1) 地域区分

都市計画マスタープランの検討にあたっては、市内を地域区分し、地域の特性に応じた将来のあるべき姿をまとめる必要があります。(地域別構想)

金沢市における地域区分の設定にあたっては、地域のまとまり(領域感)や市街地の形状等を考慮し、河川、鉄道、道路等の地形、地物を主に用いて、現行の都市計画マスタープランの地域区分と同様に下記の14地域に区分します。

	区域の名称	概ねの区域の範囲
1	中央地域	中央校下、味噌蔵町校下、明成校下、新竪町校下の全部 材木町校下、小立野校下、菊川町校下の一部
2	城東地域	南小立野校下、犀川校下の全部 小立野校下、菊川町校下、杜の里校下の一部
3	犀川南地域	中村町校下、野町校下、米泉校下の全部 弥生校下、三馬校下、泉野校下、押野校下の一部
4	城北地域	森山町校下、馬場校下の全部 小坂校下、浅野町校下、材木町校下、夕日寺校下の一部
5	東部地域	田上校下の全部 杜の里校下、東浅川校下、夕日寺校下の一部
6	南部地域	十一屋校下、長坂台校下、扇台校下、額校下、四十万校下、伏見台校下、富樫校下の全部 泉野校下、弥生校下、三馬校下の一部
7	東部丘陵地域	湯涌校下、俵校下、医王山校下の全部 東浅川校下の一部
8	南部丘陵地域	内川校下の全部
9	湖南地域	大浦校下の全部 諸江町校下、浅野町校下、千坂校下、花園校下、森本校下の一部
10	北部地域	朝日校下、不動寺校下、三谷校下の全部 小坂校下、千坂校下、花園校下、森本校下の一部
11	駅西地域	長田町校下、戸板校下、大徳校下、諸江町校下、西校下の全部 木曳野校下、鞍月校下、浅野川校下の一部
12	臨海地域	金石町校下、栗崎校下、大野町校下の全部 木曳野校下、鞍月校下、浅野川校下の一部
13	西南部地域	新神田校下、米丸校下、西南部校下の全部 押野校下、緑校下の一部
14	西部地域	安原校下、三和校下の全部 緑校下の一部





### 地域別人口増減動向

- ・概してJR北陸本線よりも海側の地域で増加、山側の地域で減少傾向にある。
- ・特に近年は中央及び東部丘陵地域での減少、東部及び湖南地域での増加が著しい。

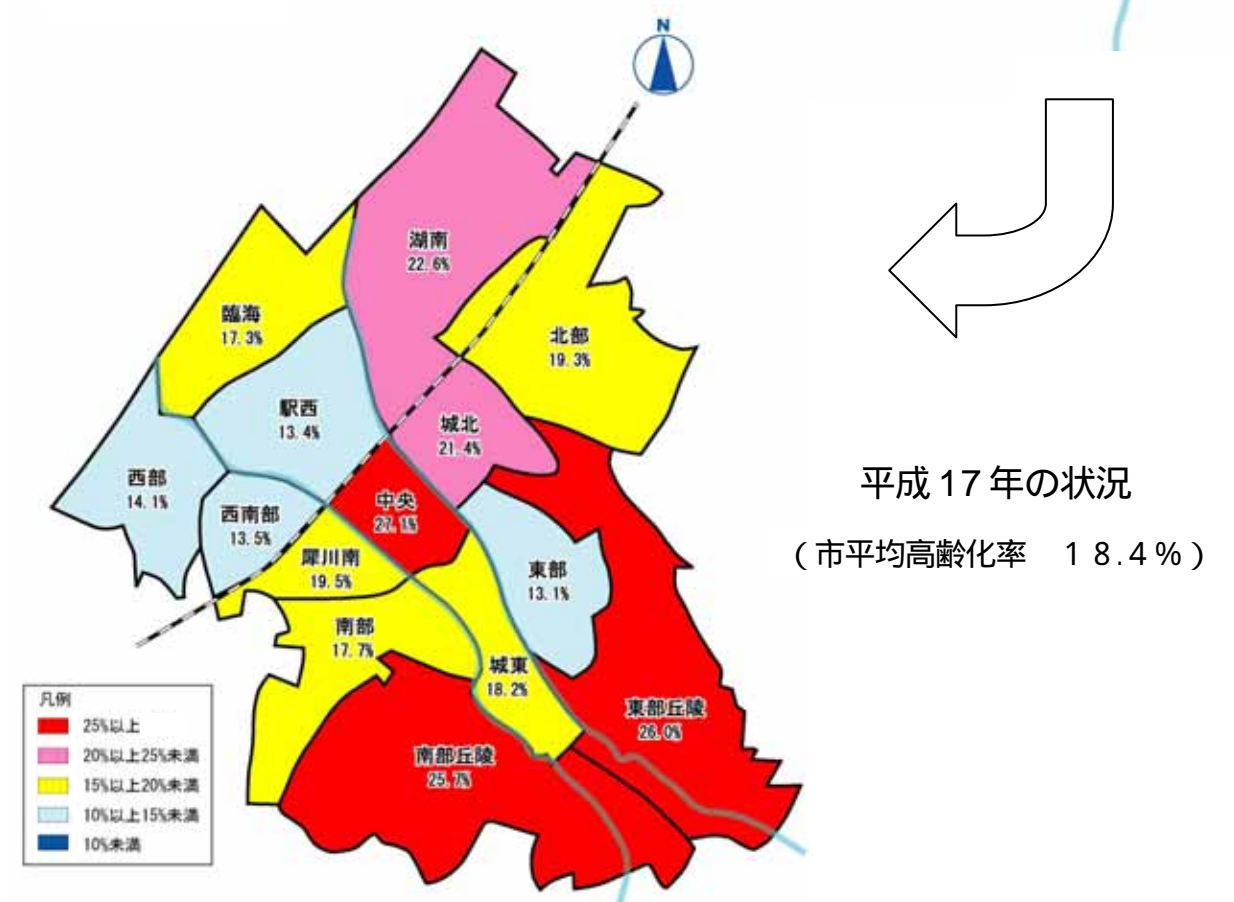
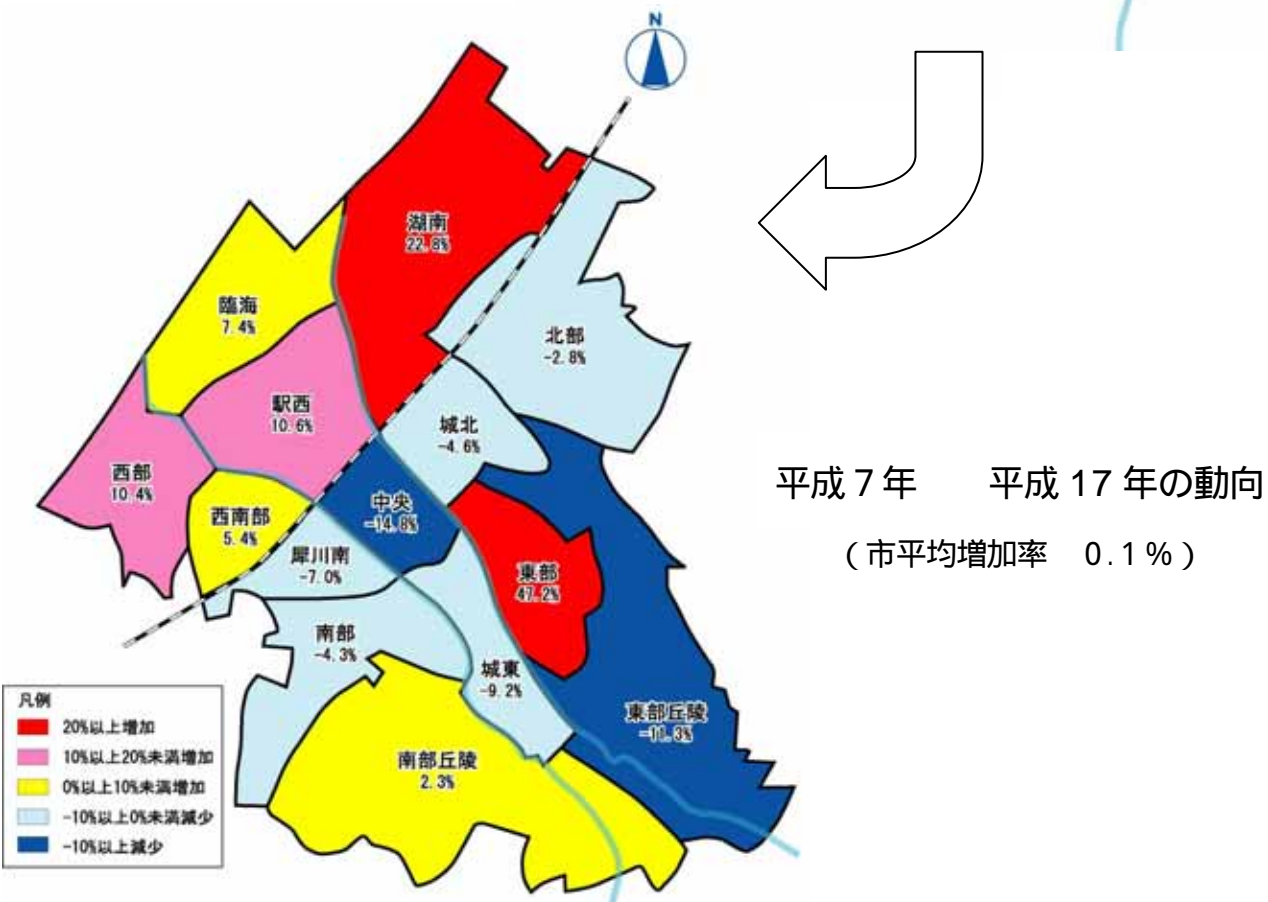
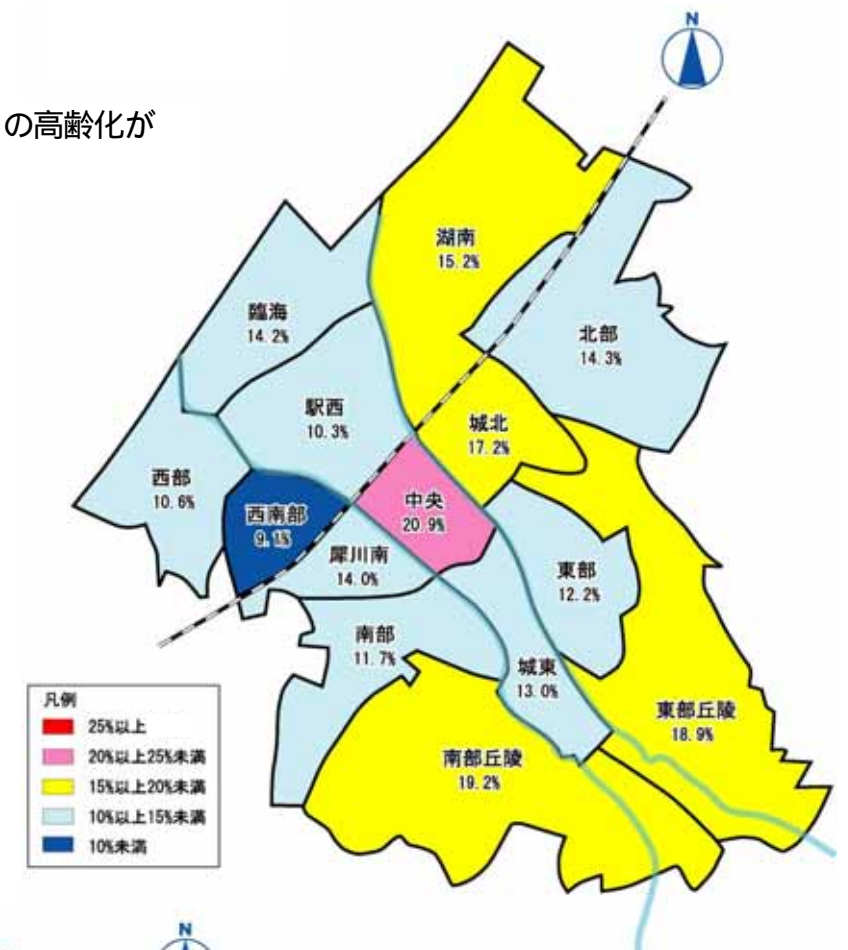
昭和60年 平成7年の動向  
(市平均増加率 5.2%)



### 地域別高齢化動向

- ・都心部及び中山間地を中心に人口の高齢化が急速に進んでいる。

平成7年の状況  
(市平均高齢化率 13.7%)



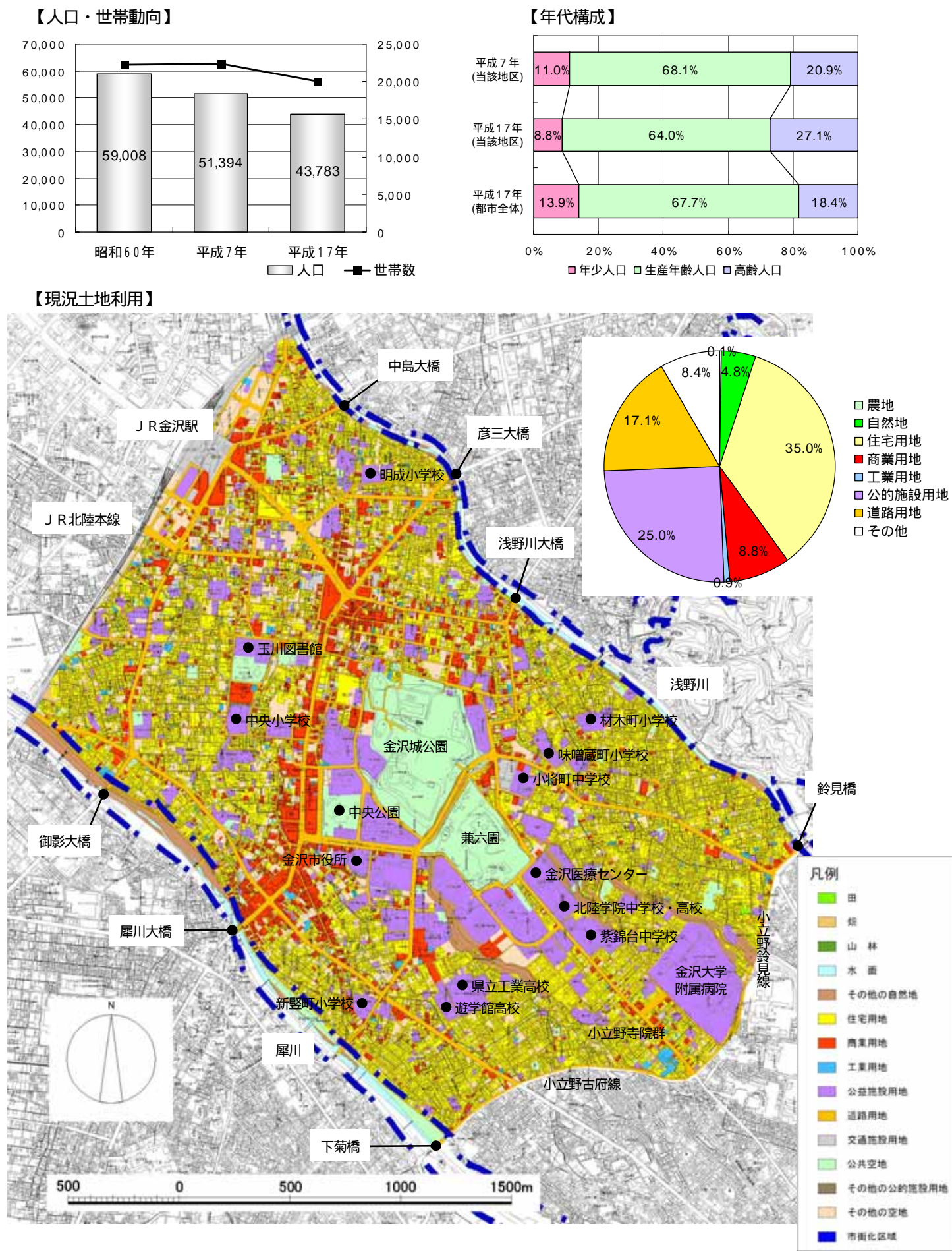
資料：国勢調査

資料：国勢調査



(2) 地域別の現状、課題と目指すべき方向性

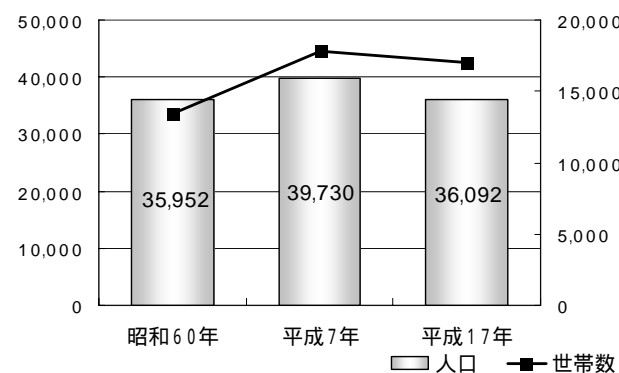
1. 中央地域		【位置図】 
地域の概要	金沢市街の中心部に位置し、商業業務、行政、交通等の本市の中枢機能が集積している。 また、兼六園、金沢城公園、長町武家屋敷等の歴史的遺構が集積しているほか、犀川・浅野川や用水の流れがまちなかを潤している。	
人口動向	<b>【人口・世帯動向】</b> ・人口、世帯数共に減少傾向にあり、20年間で人口は約15,000人、世帯数は約2,200世帯減少しており、14地域の中で最も人口・世帯数の減少が顕著である。  <b>【年代構成】</b> ・高齢人口比率が約27%を占める一方、年少人口比率は約9%であり、都市全体と比べて少子高齢化が著しく進展している。	
土地利用	<b>【土地利用現況】</b> ・都市的土地利用がほとんどを占め、自然的土地利用は5%程度に過ぎない。 ・住宅用地の割合が約35%と最も高いほか、次いで公的施設用地の約25%となっている。	<b>【開発動向】</b> ・北陸新幹線の金沢開業を見据えて、近年、金沢駅前での商業・宿泊施設の建設が著しい。  <b>【法適用現況】</b> ・全域が市街化区域に指定されている。
施設状況	<b>【主な道路交通施設】</b> ・国道157号、国道159号、JR金沢駅（もてなしドーム）、北陸鉄道浅野川線  <b>【主な公園緑地施設】</b> ・金沢城公園、中央公園、玉川公園、本多の森公園	<b>【主な公共公益施設】</b> ・金沢市役所、金沢21世紀美術館、玉川図書館、中央市民体育館、県立音楽堂、県立能楽堂、金沢大学附属病院、金沢医療センター 他  <b>【主な地域資源】</b> ・兼六園、犀川、浅野川、辰巳用水、小立野寺院群、大野庄用水、長町武家屋敷、主計町茶屋街 他
住民意向	<b>【生活環境満足度】</b> (満足度が比較的高い項目) ・通勤の利便さ ・河川の整備状況 ・ごみ・し尿処理 ・公園・緑地の整備状況( :改善) ・文化・教養施設の整備状況  (満足度が比較的低い主な項目) ・スポーツ施設の整備状況( :悪化)	<b>【地域の問題点】</b> ・空地、空家の解消 ・道路の整備 ・防犯対策  <b>【地域の魅力】</b> ・買い物に便利 ・公園緑地が充実  <b>【地域の将来像】</b> ・閑静な戸建て住宅を中心とした地区 ・高度な教育・文化・医療が集積した地区
主な課題等	<b>【主な課題】</b> ・人口の減少、高齢化 ・中心市街地の活性化 ・生活関連施設の不足 ・利便性の高い公共交通の充実 ・駐車場の乱立と緑地の不足 ・伝統的まちなみ保存と都市基盤整備とのバランス ・密集市街地の防災性向上  <b>【ポイント】</b> ・まちなか定住の促進 ・トランジットモール等の検討 ・生活関連施設の充足 ・歩行者、公共交通を優先したまちづくり ・都市緑化の推進 ・城下町金沢の歴史的まちなみ保全、文化遺産の保存 ・安全、安心な生活環境の改善	
テーマ	にぎわいと伝統が調和した活力ある城下町金沢の都心 (現行のまちづくりテーマ： にぎわいと伝統が調和した活力ある中心市街地の再生)	



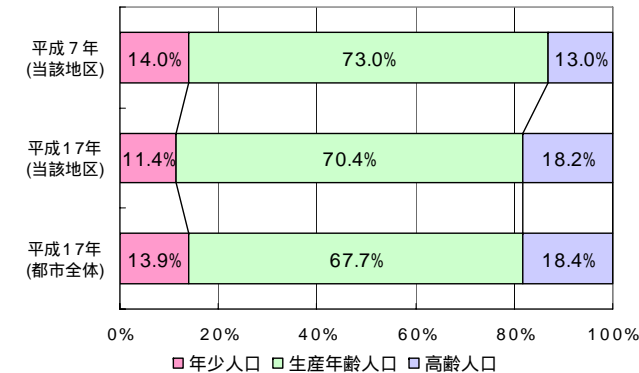


2. 城東地域		【位置図】 
地域の概要	<p>都心部にせり出す小立野台地の先端部に当たる地域で、区域両端には犀川、浅野川が流れており、その河岸段丘上には、緑豊かな斜面緑地が形成されている。</p> <p>区域内は、前田家ゆかりの寺々や用水、坂、広見等の城下町の遺構が点在する昔ながらの住宅地である。</p>	
人口動向	<p>【人口・世帯動向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人口、世帯数共に、昭和60年から平成7年にかけては増加したが、平成7年から17年にかけては減少に転じている。</li> </ul> <p>【年代構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市全体と比べて高齢人口比率は平均水準であるが、年少人口比率は約11%でやや少子化が進展している。</li> </ul>	
土地利用	<p>【土地利用現況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市的土地利用が約6割、自然的土地利用が約4割という構成になっている。</li> <li>住宅用地の割合が3割近くを占めて最も高いほか、自然、農地も共に2割程度を占めている。</li> </ul>	<p>【開発動向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に目立った動向なし</li> </ul> <p>【法適用現況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市街化区域が大半を占め、犀川、浅野川沿いの一部が市街化調整区域に指定されている。</li> <li>犀川沿いの一部が農用地区域に指定されている。</li> </ul>
施設状況	<p>【主な道路交通施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(主) 金沢湯涌福光線、外環状道路山側環状</li> </ul> <p>【主な公園緑地施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>辰巳用水遊歩道、大桑運動公園</li> </ul>	<p>【主な公共公益施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金沢美術工芸大学、金沢学院大学、犀川浄水場、未浄水場</li> </ul> <p>【主な地域資源】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小立野寺院群、辰巳用水、斜面緑地、犀川、浅野川</li> </ul>
住民意向	<p>【生活環境満足度】</p> <p>(満足度が比較的高い項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然・緑の豊かさ</li> <li>水のきれいさ</li> <li>振動・騒音</li> </ul> <p>(満足度が比較的低い主な項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ施設の整備状況</li> </ul>	<p>【地域の問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害に対する安全対策</li> <li>防犯対策</li> <li>道路の整備</li> </ul> <p>【地域の魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然が豊富</li> <li>買い物に便利</li> </ul> <p>【地域の将来像】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>閑静な戸建て住宅を中心とした地区</li> <li>住宅地と農地などの自然環境が調和した地区</li> <li>高度な教育・文化・医療が集積した地区</li> </ul>
主な課題等	<p>【主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域商業地の活性化</li> <li>金沢大学工学部の跡地利用</li> <li>緑地環境の維持</li> <li>歴史文化資産との共存</li> </ul>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小立野通りの再生</li> <li>斜面緑地の保全</li> <li>寺院群、用水等の歴史的文化遺産の保存</li> </ul>
テーマ	<p>小立野台と河岸段丘の起伏ある地形を活かした個性的な住宅地 (現行のまちづくりテーマ： 小立野台地を活かした緑豊かな住宅地の創出)</p>	

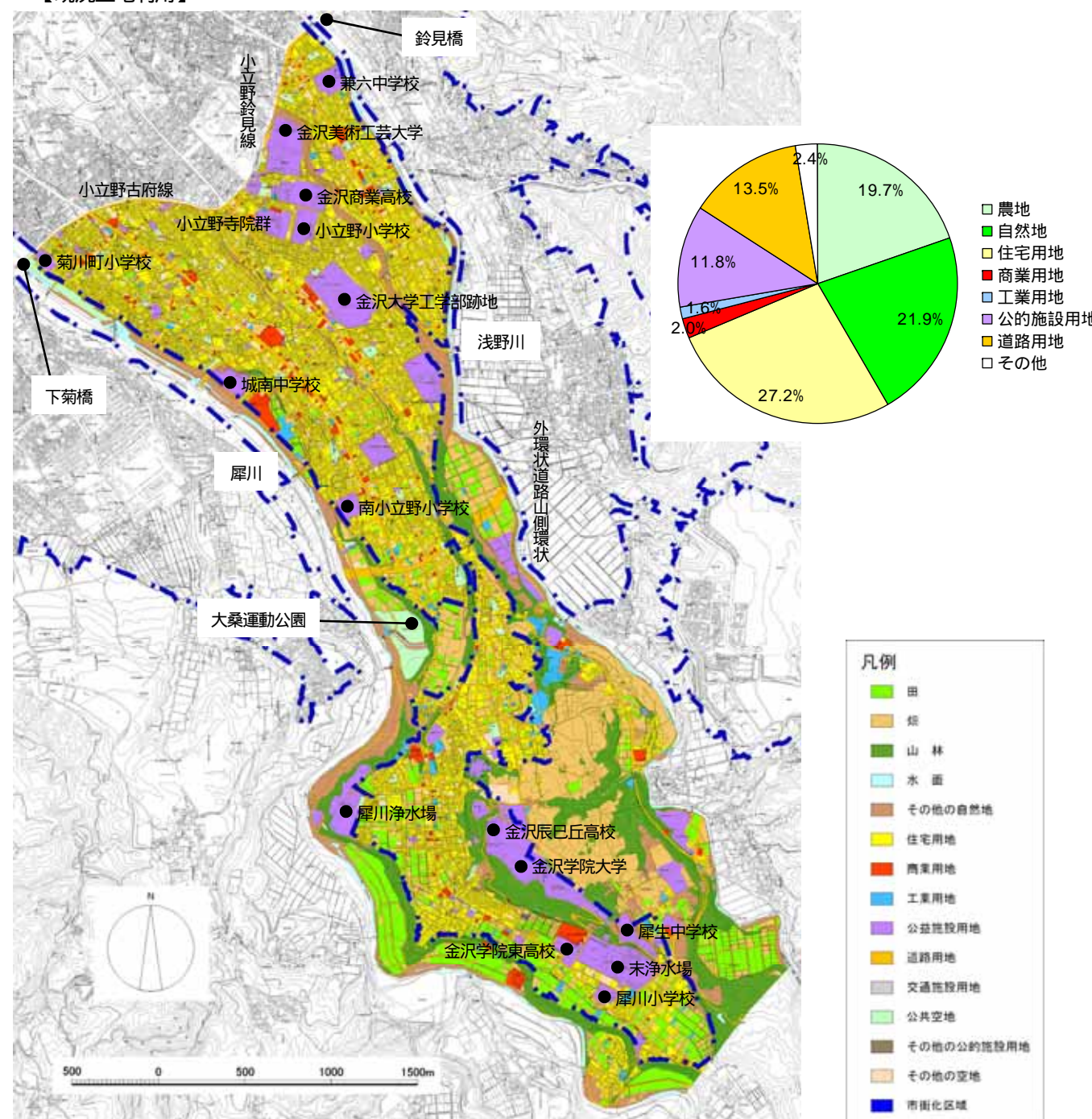
【人口・世帯動向】



【年代構成】



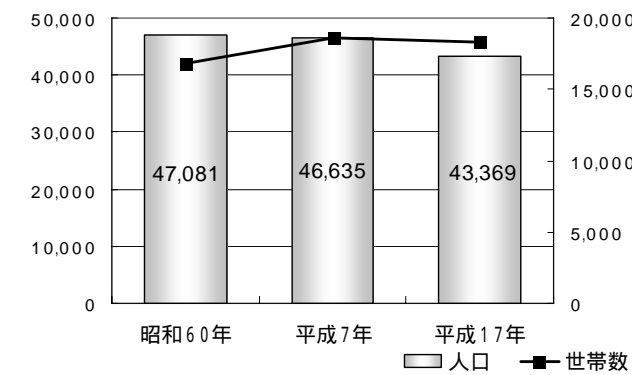
【現況土地利用】



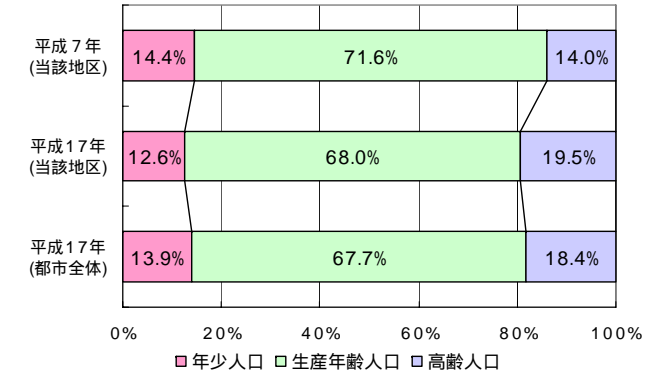


3. 犀川南地域		【位置図】 
地域の概要	犀川を挟んで都心部に隣接する地域で、小路や広見、坂など、城下町特有の都市構造が残る、昔ながらの住宅密集地域である。 また、寺町寺院群、にし茶屋街が立地し、歴史的雰囲気漂う地域である。	
人口動向	<b>【人口・世帯動向】</b> ・人口は減少傾向にあり、20年間で約3,700人の減少となっている。 ・世帯数は、昭和60年から平成7年にかけては増加したが、その後減少に転じ、10年間で約300世帯減少している。 <b>【年代構成】</b> ・都市全体と比べて高齢人口比率、年少人口比率ともに平均水準である。	
土地利用	<b>【土地利用現況】</b> ・都市的土地利用が約9割を占め、自然的土地利用は1割程度に過ぎない。 ・住宅用地の割合が約40%と最も高く、次いで道路用地となっている。	<b>【開発動向】</b> ・特に目立った動向なし <b>【法適用現況】</b> ・全域が市街化区域に指定されている。
施設状況	<b>【主な道路交通施設】</b> ・国道157号、西インター大通り、JR西金沢駅、北陸鉄道石川総線、野町駅 <b>【主な公園緑地施設】</b> ・犀川緑地、新桜坂緑地	<b>【主な公共施設】</b> ・室生犀星記念館、西茶屋資料館、泉野図書館 <b>【主な地域資源】</b> ・寺町寺院群、にし茶屋街、犀川
住民意向	<b>【生活環境満足度】</b> (満足度が比較的高い項目) ・買い物の便利さ ・通勤の便利さ (満足度が比較的低い主な項目) ・災害に対する備え( :改善) ・住宅地周辺の道路の整備状況	<b>【地域の問題点】</b> ・道路の整備 ・防犯対策 ・交通事故に対する安全対策 <b>【地域の魅力】</b> ・買い物に便利 <b>【地域の将来像】</b> ・閑静な戸建て住宅を中心とした地区 ・住宅地と農地などの自然環境が調和した地区
主な課題等	<b>【主な課題】</b> ・未利用地の有効活用 ・土地利用用途の混在 ・公共交通利用環境の改善 ・伝統的まちなみ保存と都市基盤整備とのバランス ・密集市街地の防災性向上	<b>【ポイント】</b> ・都市生活基盤の充実 ・適正な土地利用の誘導 ・西金沢駅東側の基盤整備 ・北陸鉄道石川線の利便性向上 ・寺院群、茶屋街等の歴史的まちなみ保全 ・伝統と近代の緩衝地帯形成 ・安全、安心な生活環境の改善
テーマ	寺町台に広がる伝統的まちなみと公共交通体系を活かしたまち (現行のまちづくりテーマ：寺町一帯の保全と公共交通の拠点を核にした個性的なまちの創造)	

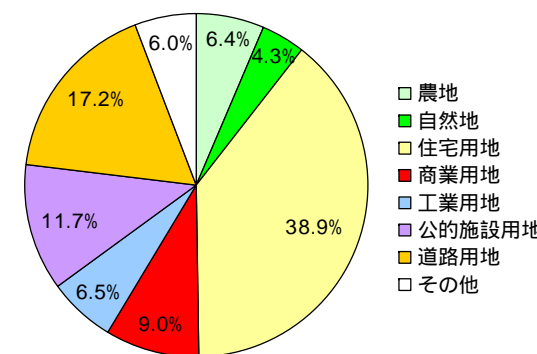
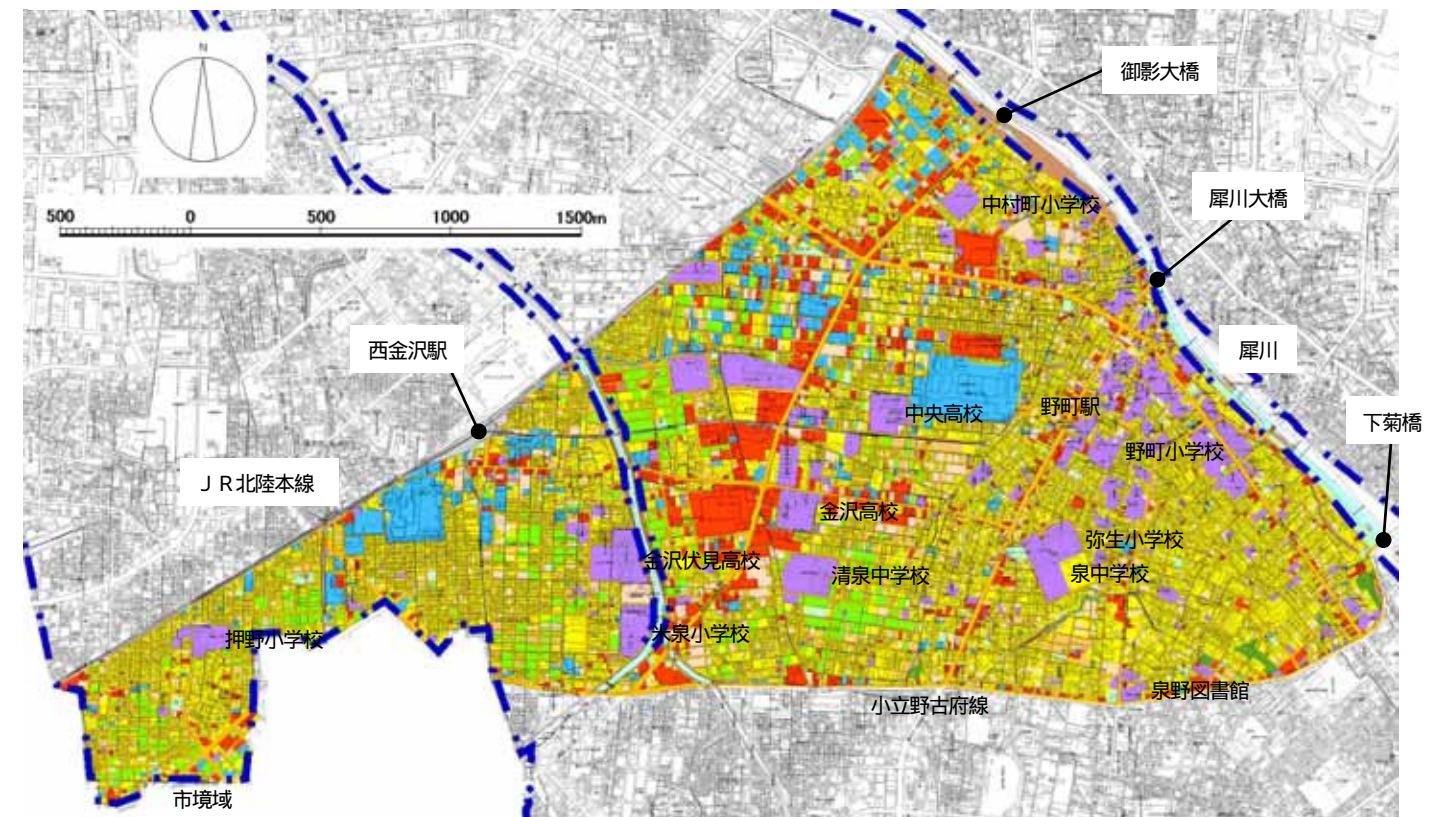
【人口・世帯動向】



【年代構成】



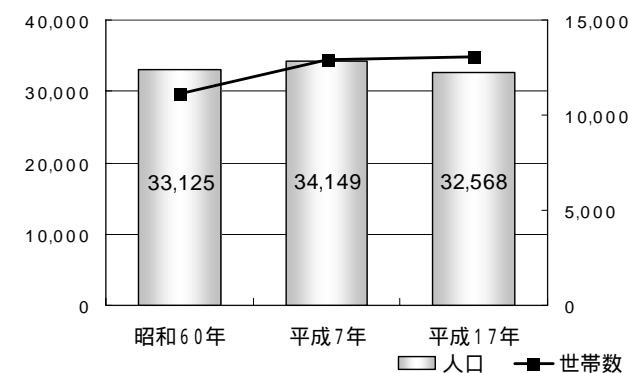
【現況土地利用】



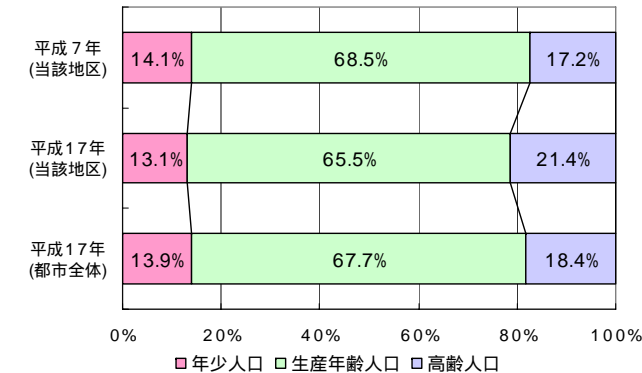


<b>4. 城北地域</b>		<b>【位置図】</b> 
<b>地域の概要</b>	浅野川を挟んで都心部に隣接しており、ひがし茶屋街、卯辰山山麓寺院群が立地するほか、用水や坂、曲がりくねった小路など、城下町特有の都市構造が残っている また、黒瓦の家並みが続く金沢特有の住宅地が形成されている。	
<b>人口動向</b>	<b>【人口・世帯動向】</b> ・人口は、昭和 60 年から平成 7 年にかけては増加したが、その後減少に転じ、10 年間で約 1,600 人減少している。 ・世帯数は増加基調で推移しており、20 年間で約 2,000 世帯増加している。 <b>【年代構成】</b> ・都市全体と比べて年少人口比率は平均水準であるが、高齢人口比率は約 21% で高齢化が進展している。	
<b>土地利用</b>	<b>【土地利用現況】</b> ・都市的土地利用が約 7 割、自然的土地利用が約 3 割という構成になっている。 ・住宅用地の割合が約 30% を占めて最も高いほか、自然地も約 20% を占めている。	<b>【開発動向】</b> ・北陸新幹線の高架橋整備が進められている。 <b>【法適用現況】</b> ・ほぼ全域が市街化区域に指定されているが、卯辰山丘陵部は市街化調整区域に指定されている。
<b>施設状況</b>	<b>【主な道路交通施設】</b> ・国道 159 号、外環状道路山側環状、JR 東金沢駅 <b>【主な公園緑地施設】</b> ・卯辰山公園、城北中央公園	<b>【主な公共公益施設】</b> ・金沢星稜大学、星稜女子短期大学、浅野川総合病院 <b>【主な地域資源】</b> ・浅野川、卯辰山寺院群、ひがし茶屋街
<b>住民意向</b>	<b>【生活環境満足度】</b> (満足度が比較的高い項目) ・自然・緑の豊かさ (満足度が比較的低い主な項目) ・災害に対する備え	<b>【地域の問題点】</b> ・災害に対する安全対策 ・道路の整備 <b>【地域の魅力】</b> ・買い物に便利 ・自然が豊富 <b>【地域の将来像】</b> ・閑静な戸建て住宅を中心とした地区 ・住宅地と農地などの自然環境が調和した地区
<b>主な課題等</b>	<b>【主な課題】</b> ・土地利用用途の混在 ・東金沢駅の利便性向上 ・緑地環境の維持 ・伝統的まちなみ保存と都市基盤整備とのバランス ・近代的景観の見直し ・安全な通学路の確保	<b>【ポイント】</b> ・適正な土地利用の誘導 ・在来線第 3 セクター化を見据えた東金沢駅周辺の基盤整備 ・市街地の借景となる背後緑地の保全 ・寺院群、茶屋街等の歴史的まちなみ保全 ・伝統と近代の緩衝地帯形成 ・安全、安心な生活環境の改善
<b>テーマ</b>	卯辰山山麓に抱かれた伝統的まちなみと近代的まちなみが調和するまち (現行のまちづくりテーマ： 東山一帯の保全と東金沢駅を拠点とした若さあふれるまちの創造)	

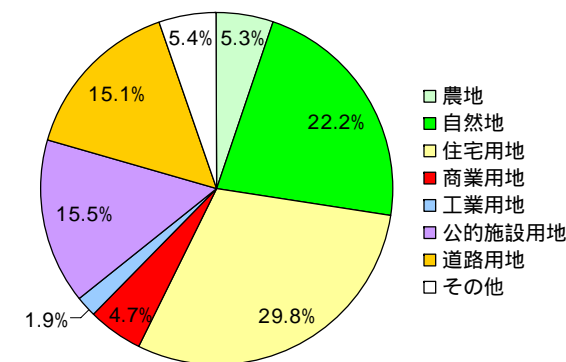
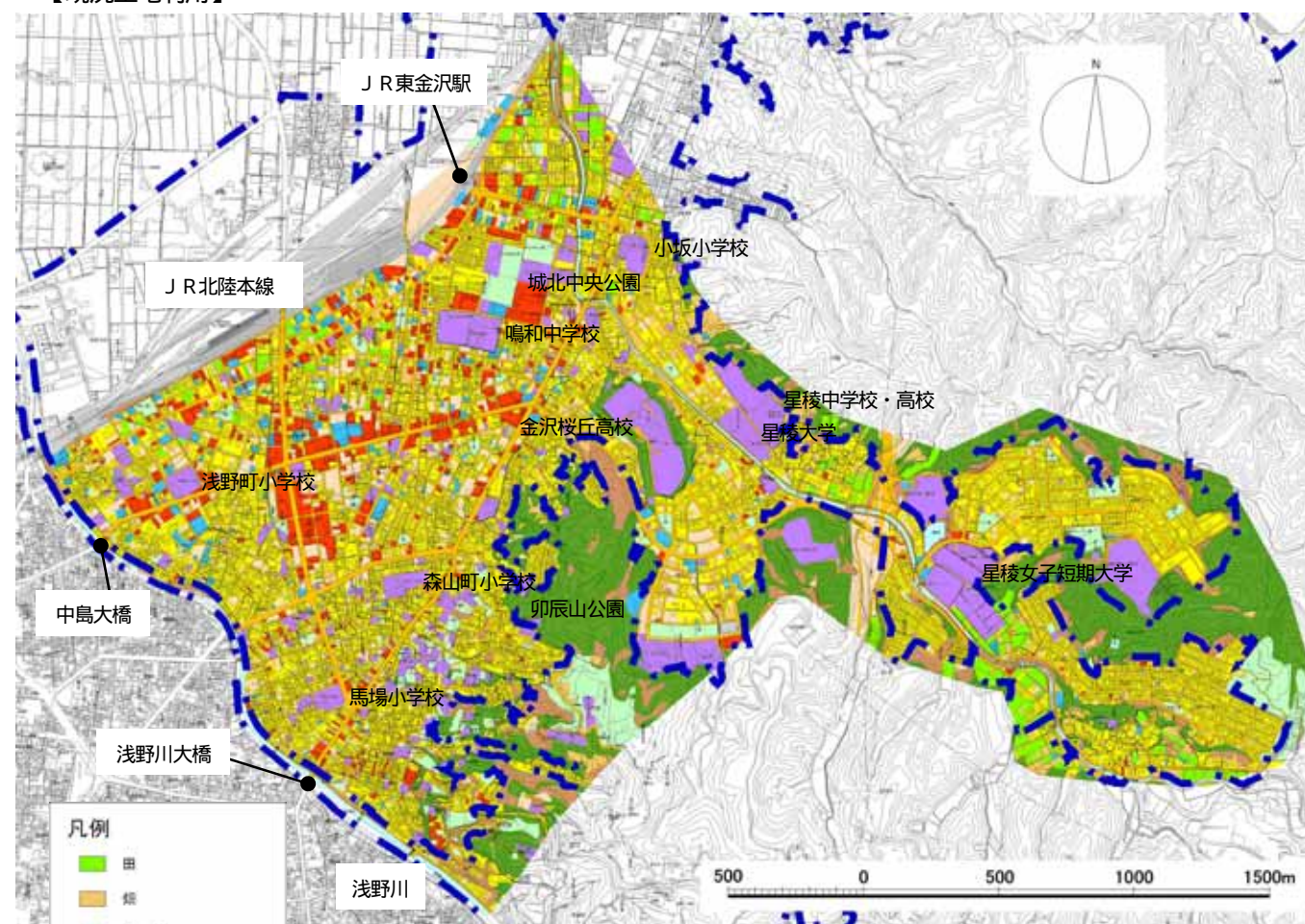
【人口・世帯動向】



【年代構成】

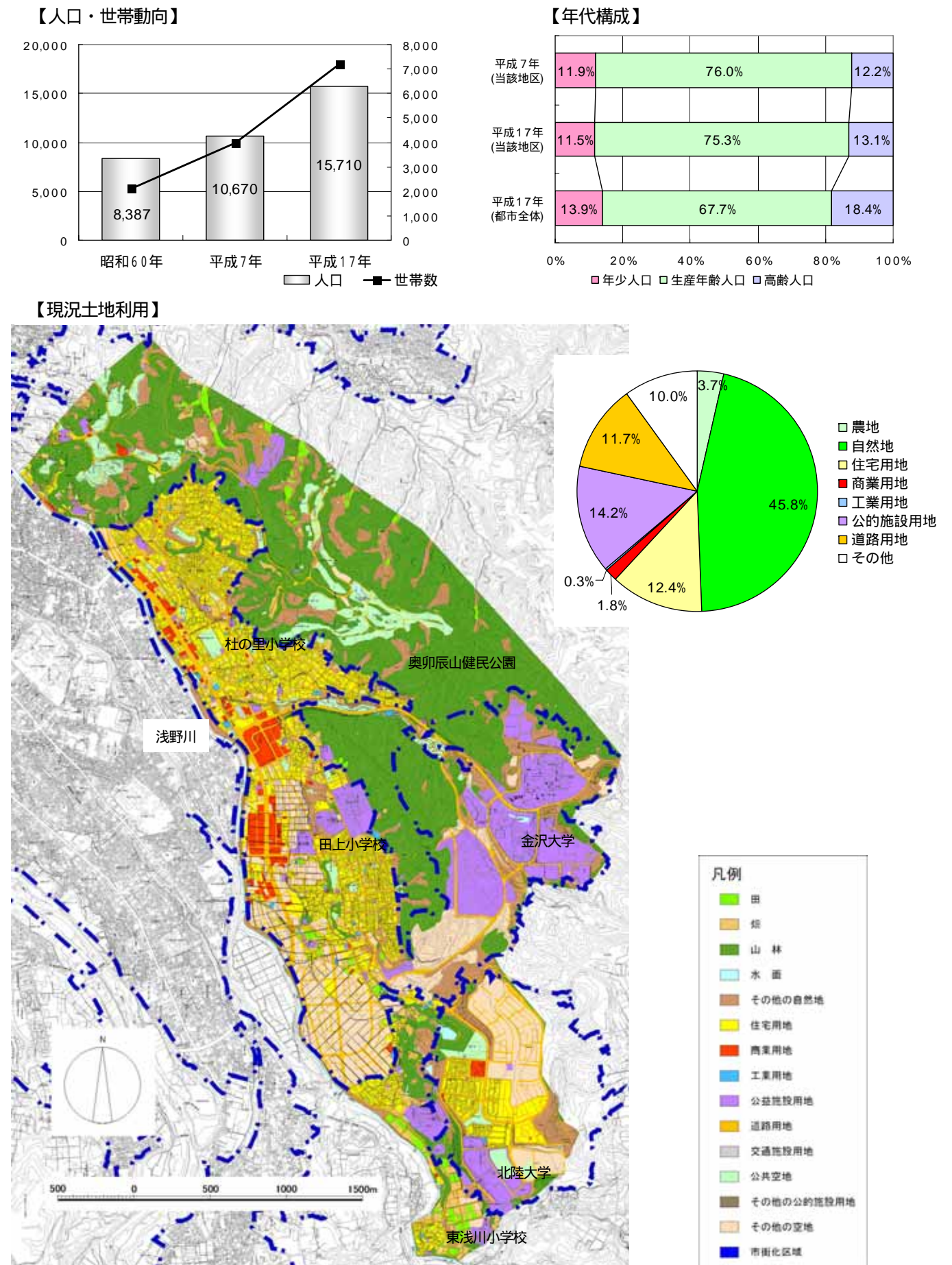


【現況土地利用】





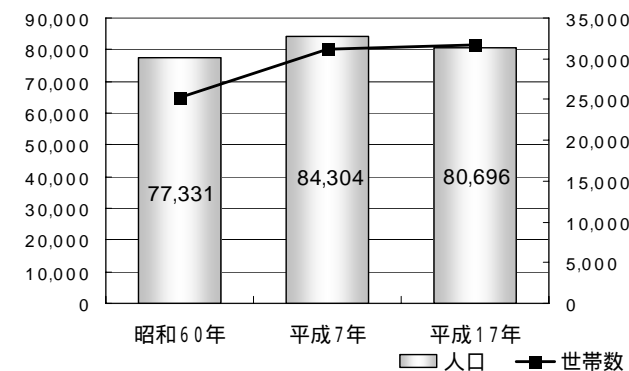
5. 東部地域		【位置図】 
地域の概要	東部丘陵のふもとに位置し、金沢大学等が立地する文教住宅地区である。 また、金沢外環状道路山側環状沿線において開発が著しく進み、商業施設、飲食店等が集積立地し、交通量も多い。 東部丘陵の緑や奥卯辰山の斜面緑地が背後に広がり、自然が身近にある。	
人口動向	<b>【人口・世帯動向】</b> ・人口、世帯数ともに堅調な伸びを示し、14 地域の中で最も伸び率が高い。 ・20 年間に於いて、人口は約 7,300 人、世帯数は約 5,100 世帯増加している。 <b>【年代構成】</b> ・都市全体と比べて高齢人口比率、年少人口比率ともに平均水準以下であり、生産年齢人口比率が 14 地域の中で最も高い。	
土地利用	<b>【土地利用現況】</b> ・都市的土地利用と自然的土地利用が半々の割合となっている。 ・自然地の割合が約 46%と最も高い。	<b>【開発動向】</b> ・外環状道路山側環状沿道における開発が顕著。 ・土地区画整理事業による住宅地整備が進められている。  <b>【法適用現況】</b> ・丘陵地部を除くほぼ全域が市街化区域に指定されている。
施設状況	<b>【主な道路交通施設】</b> ・外環状道路山側環状、(主)金沢井波線  <b>【主な公園緑地施設】</b> ・奥卯辰山健民公園	<b>【主な公共公益施設】</b> ・金沢大学、北陸大学  <b>【主な地域資源】</b> ・浅野川
住民意向	<b>【生活環境満足度】</b> (満足度が比較的高い項目) ・自然・緑の豊かさ      ・買い物の便利さ ・水のきれいさ ・住宅地周辺の道路の整備状況 ( : 改善) ・公園・緑地の整備状況 ・まちなみ景観の整備状況  (満足度が比較的低い主な項目) ・文化・教養施設の整備状況	<b>【地域の問題点】</b> ・交通事故に対する安全対策      ・防犯対策 ・災害に対する安全対策  <b>【地域の魅力】</b> ・自然が豊富      ・買い物が便利 ・公園緑地が充実      ・町並み景観が美しい  <b>【地域の将来像】</b> ・閑静な戸建て住宅を中心とした地区 ・高度な教育・文化・医療が集積した地区 ・住宅地と農地などの自然環境が調和した地区
主な課題等	<b>【主な課題】</b> ・急激な都市化進展対応 ・能登・富山方面アクセスの円滑化 ・緑地環境の維持	<b>【ポイント】</b> ・外環状道路山側環状の4車線化整備促進 ・金沢福光連絡道路の整備促進 ・市街地の借景となる背後緑地の保全 ・景観に配慮した開発誘導
テーマ	緑豊かで若さと活気あふれる大学の門前町 (現行のまちづくりテーマ： 大学と一体となったハイアメリタウンの建設)	



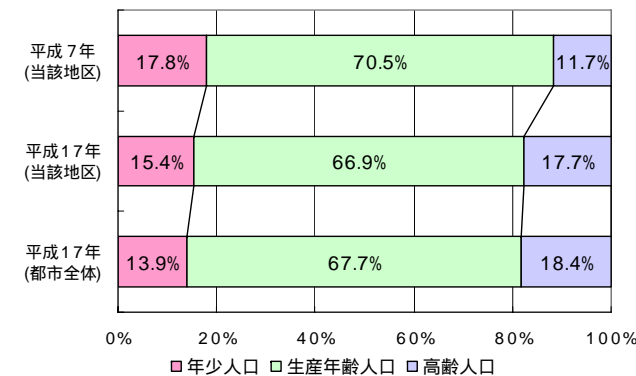


6. 南部地域		【位置図】 
地域の概要	市街地南部に位置し、住宅や商業業務施設等が混在する建物の密集地域である。 近年、丘陵部に外環状道路山側環状が開通し、丘陵部の環境が大きく変化した。	
人口動向	<b>【人口・世帯動向】</b> ・人口は、昭和 60 年から平成 7 年にかけて増加したが、その後減少に転じ、10 年間で約 3,600 人減少している。 ・世帯数は増加しているものの、平成 7 年から 17 年にかけては小幅な増加となっている。  <b>【年代構成】</b> ・都市全体と比べて高齢人口比率は平均水準であるが、年少人口比率は約 15%とやや高い。	
土地利用	<b>【土地利用現況】</b> ・都市的土地利用が約 8 割を占め、自然的土地利用は 2 割程度にとどまっている。 ・住宅用地の割合が約 35%を占めて最も高く、次いで道路用地となっている。	<b>【開発動向】</b> ・外環状道路山側環状沿道における開発が顕著であり、土地区画整理事業による商業業務地整備が進められている。南部では、土地区画整理事業による住宅地整備が進められてきた。 <b>【法適用現況】</b> ・全域が市街化区域に指定されている。
施設状況	<b>【主な道路交通施設】</b> ・外環状道路山側環状、北陸鉄道石川総線  <b>【主な公園緑地施設】</b> ・犀川緑地、金沢総合運動公園、大乘寺丘陵公園、額谷ふれあい公園	<b>【主な公共公益施設】</b> ・総合体育館、金沢市立病院、赤十字病院、陸上自衛隊金沢駐屯地  <b>【主な地域資源】</b> ・大乘寺、野田山墓地、犀川
住民意向	<b>【生活環境満足度】</b> (満足度が比較的高い項目) ・自然・緑の豊かさ  (満足度が比較的低い主な項目) ・災害に対する備え	<b>【地域の問題点】</b> ・防犯対策 ・交通事故に対する安全対策 <b>【地域の魅力】</b> ・買い物に便利 ・自然が豊富 <b>【地域の将来像】</b> ・閑静な戸建て住宅を中心とした地区 ・住宅地と農地などの自然環境が調和した地区 ・高度な教育・文化・医療が集積した地区
主な課題等	<b>【主な課題】</b> ・住宅地の個性化、隣接市町との連携 ・公共交通利用環境の改善 ・緑地環境の維持 ・広域レクリエーション機能の充実 ・歴史文化資産との共存  <b>【ポイント】</b> ・魅力的な居住環境の形成 ・北陸鉄道石川線の利便性向上 ・パーク＆ライド拠点の形成 ・市街地の借景となる背後緑地の保全 ・大乘寺丘陵公園の整備促進 ・野田山の歴史的文化資産保存	
テーマ	緑が映える丘陵地を背景とした成熟した住宅地 (現行のまちづくりテーマ： 南部丘陵の緑が映える成熟した住宅地の個性の演出)	

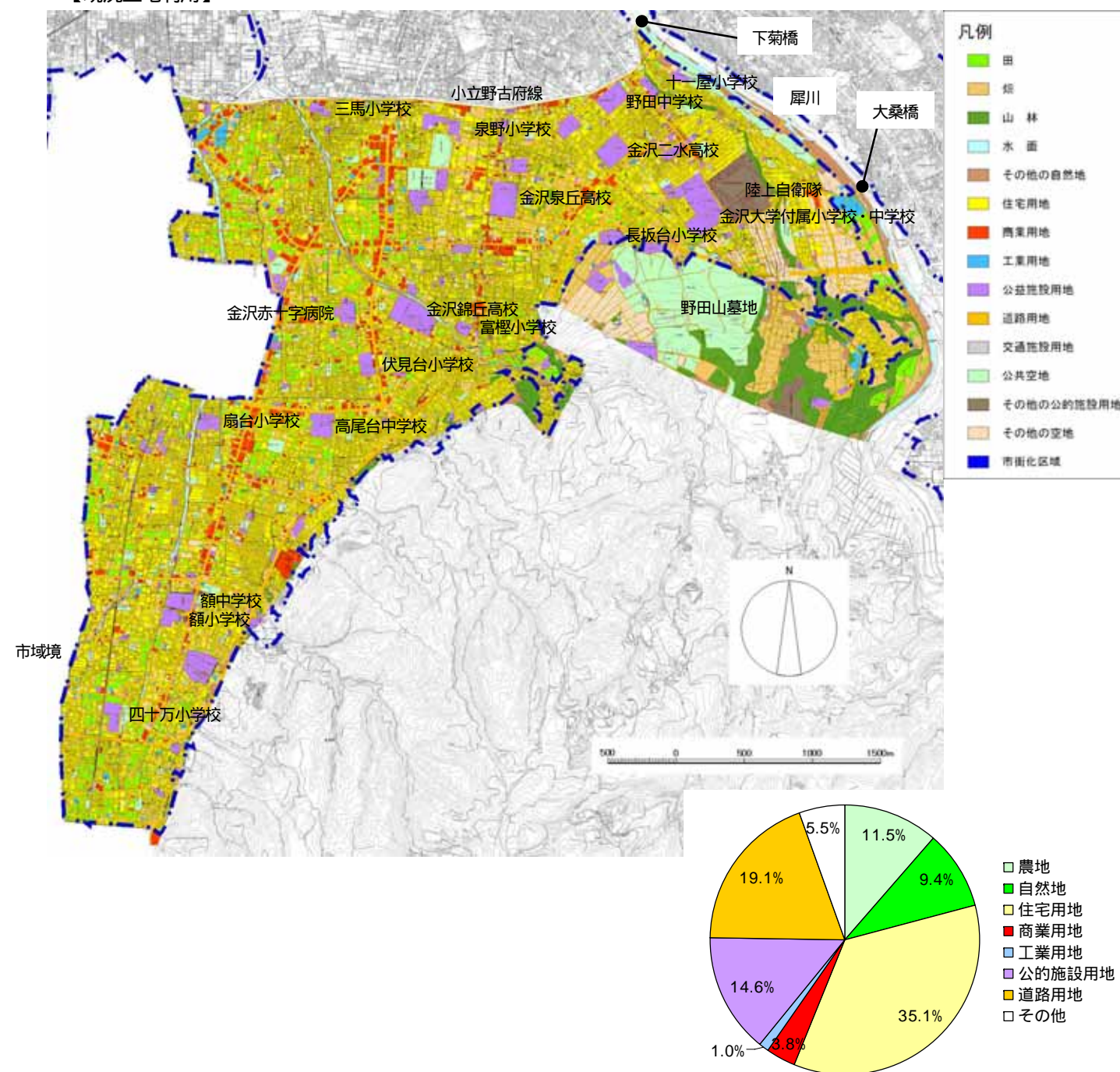
【人口・世帯動向】



【年代構成】

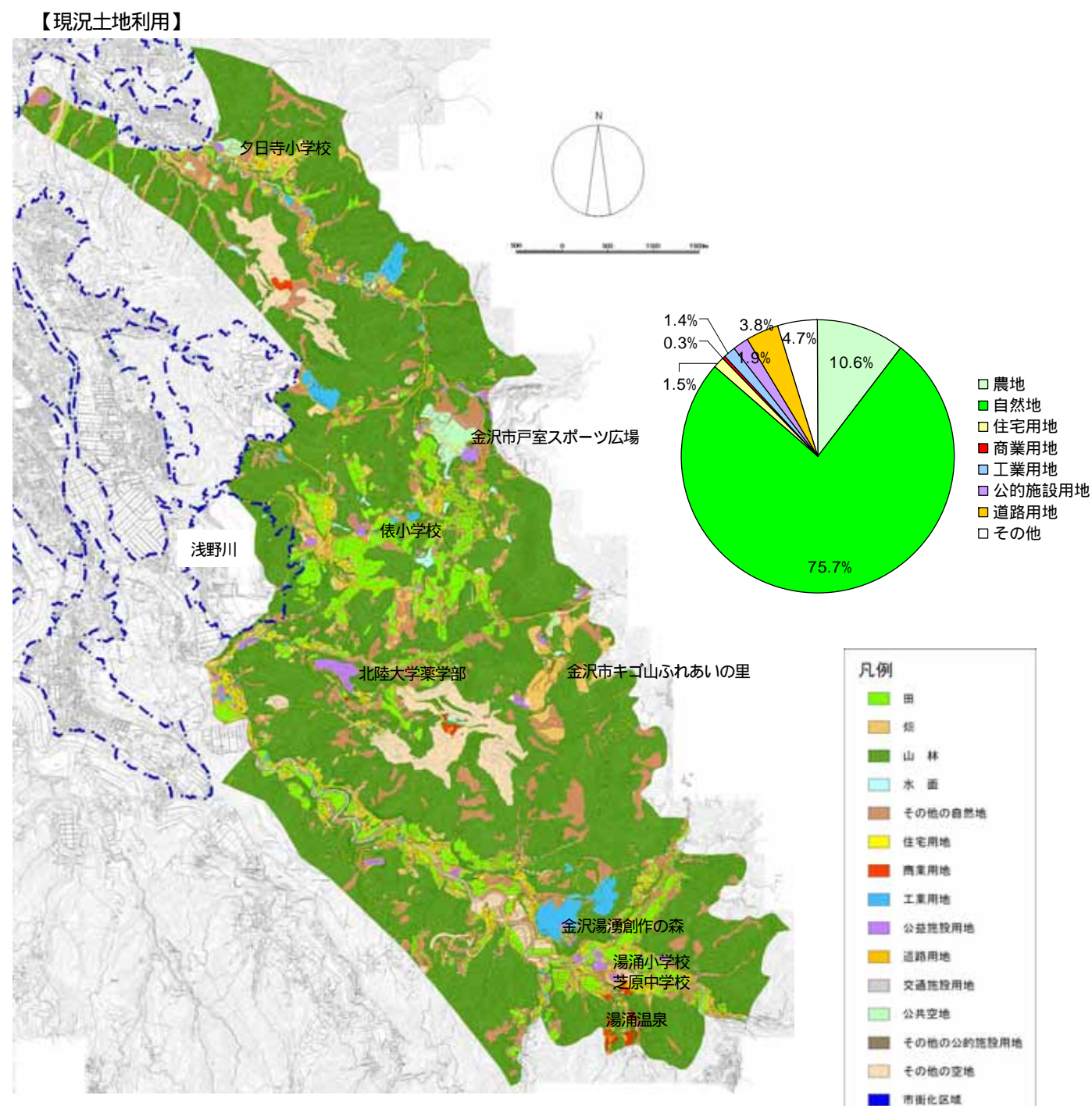
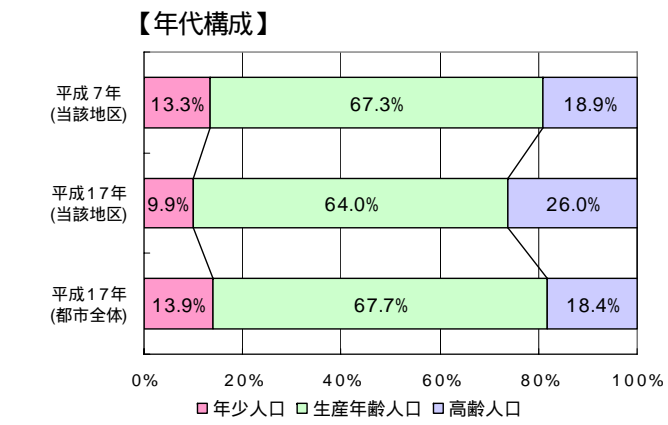
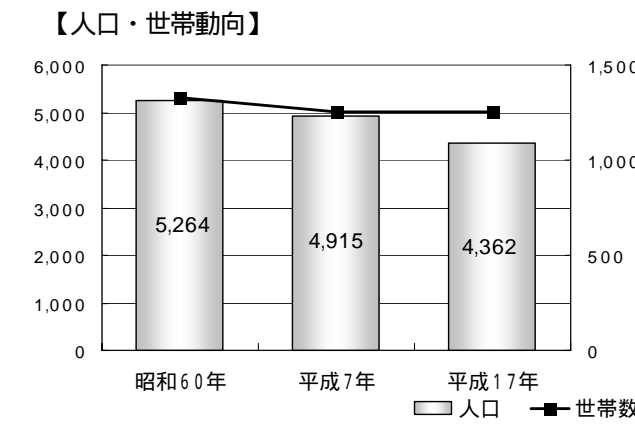


【現況土地利用】



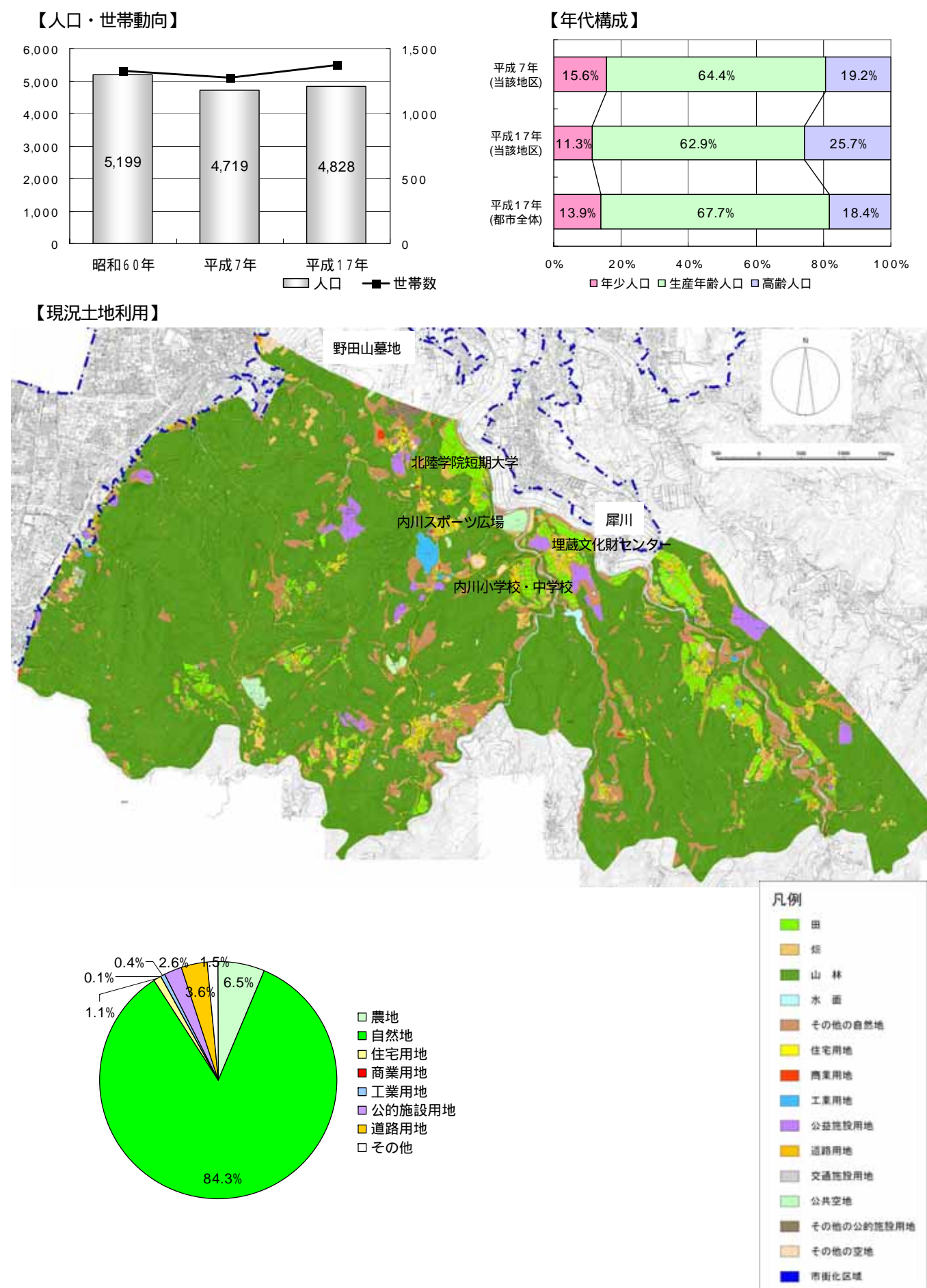


<b>7. 東部丘陵地域</b>		<b>【位置図】</b> 
<b>地域の概要</b>	浅野川上流の山間部に位置する、豊かな自然環境に囲まれた地域である。 地域内には、金沢湯涌温泉やスキー場、ゴルフ場が点在しているほか、二俣・田島の歴史的由緒ある集落が立地する。	
<b>人口動向</b>	<b>【人口・世帯動向】</b> ・人口、世帯数ともに減少傾向にあり、20年間で人口は約900人、世帯数は約70世帯減少している。  <b>【年代構成】</b> ・高齢人口比率が約26%を占める一方、年少人口比率は約10%であり、都市全体と比べて少子高齢化が著しく進展している。	
<b>土地利用</b>	<b>【土地利用現況】</b> ・自然的土地利用が9割近くを占め、このうちの大半を自然地が占めている。 ・都市的土地利用のうち、住宅用地は1割程度に過ぎない。	<b>【開発動向】</b> ・特に目立った動向なし  <b>【法適用現況】</b> ・ほぼ全域が市街化調整区域に指定されている。一部、東部地域との境界周辺が市街化調整区域に指定されている。
<b>施設状況</b>	<b>【主な道路交通施設】</b> ・外環状道路山側環状、(主)金沢湯杵涌福光線  <b>【主な公園緑地施設】</b> ・卯辰山公園、医王山県立自然公園、夕日寺健民自然公園、辰巳用水遊歩道	<b>【主な公共公益施設】</b> ・金沢湯涌創作の森、銀河の里キゴ山、市営放牧場、医王山スキー場  <b>【主な地域資源】</b> ・湯涌温泉、自然、公園
<b>住民意向</b>	<b>【生活環境満足度】</b> (満足度が比較的高い項目) ・自然・緑の豊かさ ・日照・通風 ・水のきれいさ ・振動・騒音  (満足度が比較的低い主な項目) ・買い物の便利さ ・災害に対する備え ・通学路の安全対策 ・スポーツ施設の整備状況 ・医療施設の量と質 ・防犯環境 ・文化・教養施設の整備状況 ・通勤の便利さ ・公園・緑地の整備状況	<b>【地域の問題点】</b> ・災害に対する安全対策 ・道路の整備  <b>【地域の魅力】</b> ・自然が豊富 ・地域の連帯感  <b>【地域の将来像】</b> ・住宅地と農地などの自然環境が調和した地区
<b>主な課題等</b>	<b>【主な課題】</b> ・人口の減少、高齢化 ・湯涌温泉の活性化 ・中山間集落の維持、モビリティ確保 ・富山方面アクセスの強化 ・里山の維持管理	<b>【ポイント】</b> ・湯涌温泉街の環境整備 ・中山間集落の居住環境改善 ・災害に強い山間地ネットワーク道路の整備 ・金沢福光連絡道路の整備促進 ・レクリエーション環境の充実
<b>テーマ</b>	里山の自然と共生し、湯涌温泉を核とした癒しの空間 (現行のまちづくりテーマ： 山の魅力あふれる集いと憩いのネットワークづくり)	



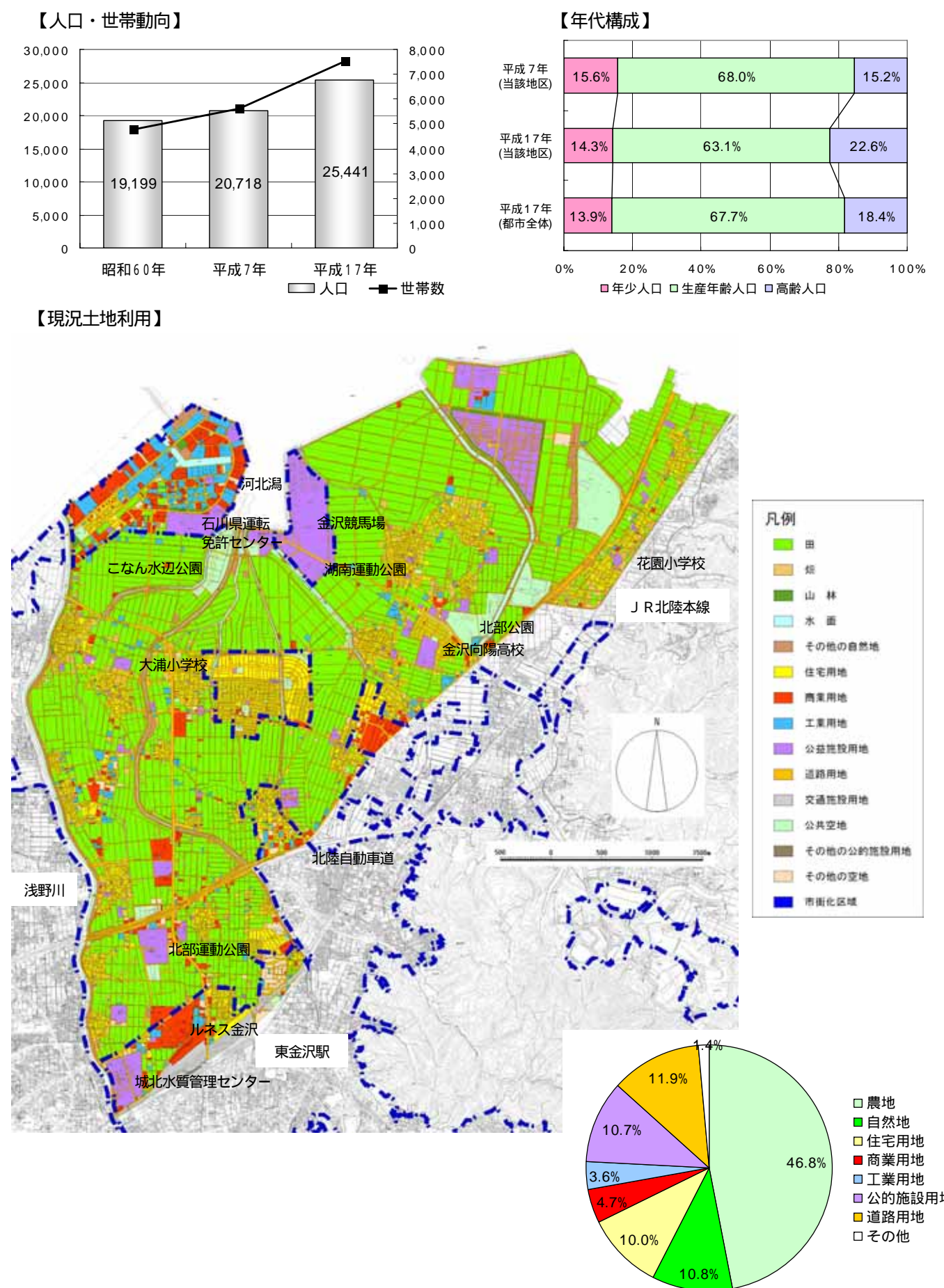


8. 南部丘陵地域		【位置図】
地域の概要	犀川の上流域、野田山丘陵後背の山間地域で、山地が多くを占め、所々に集落が点在している。 また地域内には、大乘寺丘陵総合公園や内川スポーツ広場等のレクリエーション施設が点在している。	
人口動向	<b>【人口・世帯動向】</b> ・人口、世帯数ともに昭和 60 年から平成 7 年にかけては減少したが、その後増加に転じ、10 年間で人口は約 100 人、世帯数は約 90 世帯増加している。  <b>【年代構成】</b> ・高齢人口比率が約 26% を占める一方、年少人口比率は約 11% であり、都市全体と比べて少子高齢化が著しく進展している。	
土地利用	<b>【土地利用現況】</b> ・自然的土地利用が約 9 割を占め、そのほとんどを自然が占めている。 ・都市的土地利用のうち、住宅用地は 1 割程度に過ぎない。  <b>【開発動向】</b> ・特に目立った動向なし  <b>【法適用現況】</b> ・全域が市街化調整区域に指定されている。	
施設状況	<b>【主な道路交通施設】</b> ・(一) 別所野町線、(一) 小原土清水線  <b>【主な公園緑地施設】</b> ・大乘寺丘陵総合公園、内川スポーツ広場 平栗いこいの森	<b>【主な公共施設】</b> ・北陸学院短期大学、県立埋蔵文化財センター  <b>【主な地域資源】</b> ・森林、長坂用水、加賀野菜「たけのこ」
住民意向	<b>【生活環境満足度】</b> (満足度が比較的高い項目) ・自然・緑の豊かさ ・水のきれいさ ・振動・騒音  (満足度が比較的低い主な項目) ・通勤の便利さ ・買い物の便利さ ・防犯環境 ・医療施設の量と質	<b>【地域の問題点】</b> ・災害に対する安全対策 ・道路の整備  <b>【地域の魅力】</b> ・自然が豊富  <b>【地域の将来像】</b> ・住宅地と農地などの自然環境が調和した地区 ・閑静な戸建て住宅を中心とした地区
主な課題等	<b>【主な課題】</b> ・人口の減少、高齢化 ・市街地部との連携強化 ・中山間集落の維持、モビリティ確保 ・里山の維持管理 ・個性ある里山文化の活用	<b>【ポイント】</b> ・地域拠点づくり ・都市と農山村の交流促進 ・中山間集落の居住環境改善 ・災害に強い山間地ネットワーク道路の整備
テーマ	人と自然が融和した緑豊かな里山 (現行のまちづくりテーマ：人と自然が融和した個性豊かな山里づくり)	





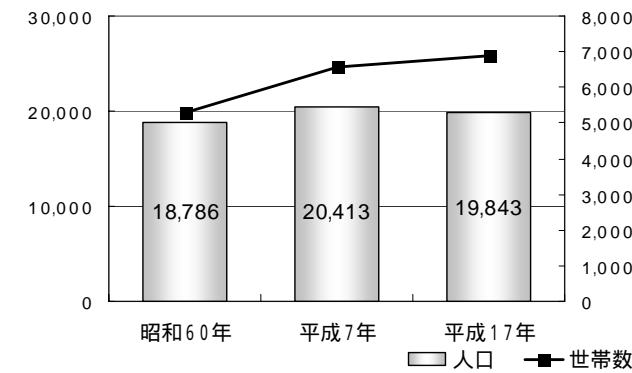
9. 湖南地域		【位置図】 
地域の概要	河北潟に面する地域で、まとまりのある農地が広がる郊外の田園地帯である。 近年、区画整理等による宅地化や市街地の拡大が徐々に進展し、新しい住宅団地や工業施設が立地している。	
人口動向	<b>【人口・世帯動向】</b> ・人口、世帯数ともに堅調な伸びを示し、増加率の高い地域の一つである。 ・20年間に於いて、人口は約6,200人、世帯数は約2,700世帯増加している。 <b>【年代構成】</b> ・都市全体と比べて年少人口比率は平均水準であるが、高齢人口比率は約23%で高齢化が進展している。	
土地利用	<b>【土地利用現況】</b> ・都市的土地利用が約4割、自然的土地利用が約6割という構成になっている。 ・全体的には農地の割合が約46%と最も高い。	<b>【開発動向】</b> ・土地区画整理事業による郊外型住宅地の開発が進められてきた。  <b>【法適用現況】</b> ・木越団地や湊地区等の一部は市街化区域に指定、その他大半は市街化調整区域に指定されている。
施設状況	<b>【主な道路交通施設】</b> ・北陸自動車道 金沢東IC、国道8号、東インター大通り、JR東金沢駅、北陸鉄道浅野川線  <b>【主な公園緑地施設】</b> ・北部運動公園、北部公園、こなん水辺公園、湖南運動公園	<b>【主な公共施設】</b> ・金沢競馬場、石川県運転免許センター、城北水質管理センター  <b>【主な地域資源】</b> ・河北潟、田園
住民意向	<b>【生活環境満足度】</b> (満足度が比較的高い項目) ・日照・通風  (満足度が比較的低い主な項目) ・文化・教養施設の整備状況 ・スポーツ施設の整備状況 ・通勤の便利さ	<b>【地域の問題点】</b> ・災害に対する安全対策 ・道路の整備 <b>【地域の魅力】</b> ・自然が豊富 ・地域の連帯感 <b>【地域の将来像】</b> ・住宅地と農地などの自然環境が調和した地区 ・閑静な戸建て住宅を中心とした地区
主な課題等	<b>【主な課題】</b> ・郊外型住宅地の維持 ・農地と住宅地とのすみわけ ・外環状道路海側幹線沿道の適正な土地利用及び景観形成の誘導 ・東インター大通りの景観改善	<b>【ポイント】</b> ・郊外型住宅の居住環境整備 ・優良農地の保全 ・外環状道路海側幹線の整備促進 ・レクリエーション環境の充実 ・東インター大通りの良好な沿道景観形成
テーマ	豊かな田園風景に育まれたゆとりある住宅・レクリエーション地域 (現行のまちづくりテーマ： 農業と調和した計画的な郊外型市街地の創造)	



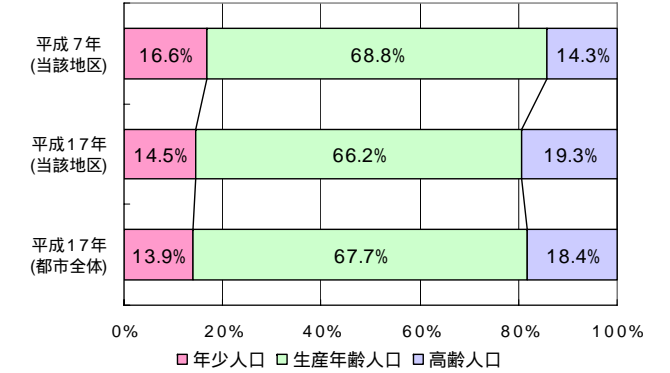


10. 北部地域		【位置図】 
地域の概要	市街地の北部に位置し、金沢市の北の玄関口にあたる。地域内には、北陸自動車道、北陸本線、国道、外環状道路山側環状など主要広域交通網が通過しており、交通の要衝地でもある。また、丘陵部に金沢テクノパークが立地している。	
人口動向	<b>【人口・世帯動向】</b> ・人口は、昭和60年から平成7年にかけて増加したが、その後減少に転じ、10年間で約600人減少している。 ・世帯数は、増加基調で推移している。 <b>【年代構成】</b> ・都市全体と比べて高齢人口比率、年少人口比率ともに平均水準である。	
土地利用	<b>【土地利用現況】</b> ・都市的土地利用が約2割、自然的土地利用が約8割という構成になっている。 ・全体的には、自然地の割合が約70%と圧倒的に高い。	<b>【開発動向】</b> ・金沢テクノパークや金沢森本IC、北陸新幹線の軌道整備が進められた。 ・民間による住宅地整備が進められた。 <b>【法適用現況】</b> ・森本地区や北陽台等の一部は市街化区域に指定、その他大半は市街化調整区域に指定されている。
施設状況	<b>【主な道路交通施設】</b> ・北陸自動車道 森本IC、国道8号、国道159号、国道304号、外環状道路山側環状、JR森本駅 <b>【主な公園緑地施設】</b> ・特になし。	<b>【主な公共公益施設】</b> ・特に目立った動向なし <b>【主な地域資源】</b> ・金沢テクノパーク、森林
住民意向	<b>【生活環境満足度】</b> (満足度が比較的高い項目) ・自然・緑の豊かさ (満足度が比較的低い主な項目) ・文化・教養施設の整備状況	<b>【地域の課題点】</b> ・道路の整備 ・災害に対する安全対策 <b>【地域の魅力】</b> ・自然が豊富 ・買い物に便利 ・地域の連帯感 <b>【地域の将来像】</b> ・住宅地と農地などの自然環境が調和した地区 ・閑静な戸建て住宅を中心とした地区
主な課題等	<b>【主な課題】</b> ・地域拠点としての活力向上 ・パーク＆ライド推進に向けた交通結節点機能の強化 ・能登・富山方面アクセスの円滑化 ・中山間集落の維持、モビリティ確保 ・緑地環境の維持	<b>【ポイント】</b> ・地域拠点としての機能充実 ・在来線第3セクター化を見据えた森本駅周辺の基盤整備 ・外環状道路山側環状の4車線化整備促進 ・中山間集落の居住環境改善 ・市街地の借景となる背後緑地の保全
テーマ	駅やインターチェンジを核とした緑あふれる魅力的な北の拠点 (現行のまちづくりテーマ： 森本駅を核とした魅力ある北の拠点の創出)	

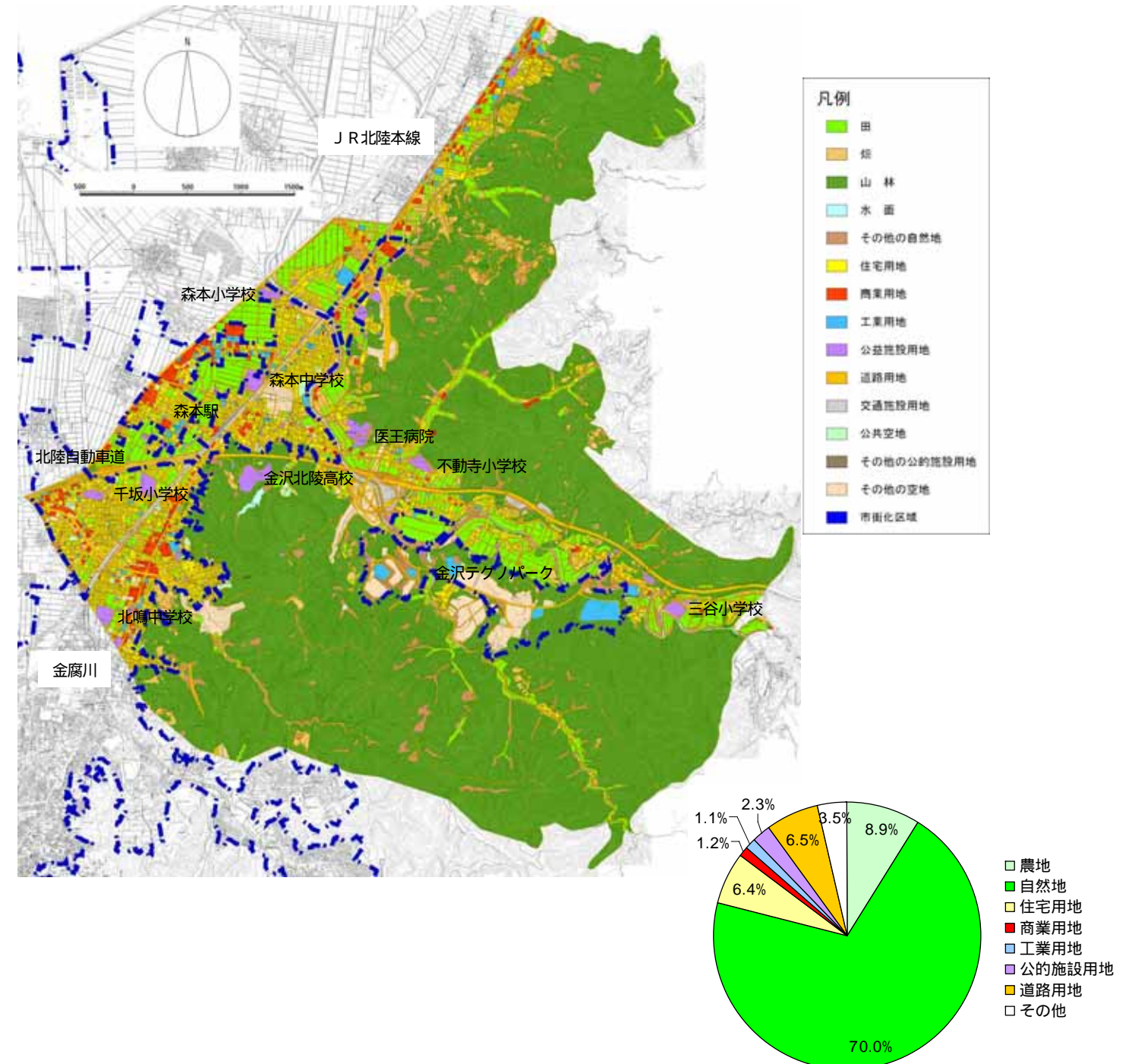
【人口・世帯動向】



【年代構成】



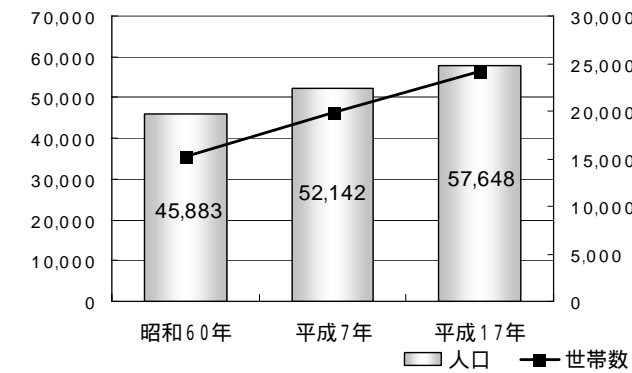
【現況土地利用】



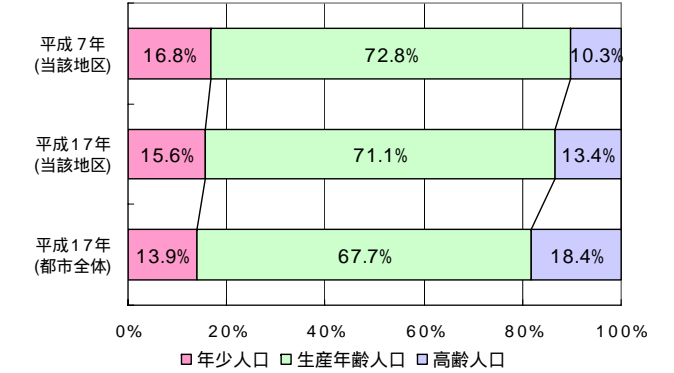


<b>11. 駅西地域</b>		<b>【位置図】</b> 
<b>地域の概要</b>	JR金沢駅の西側に広がる地域で、地域中央を50m道路が通過するとともに、JR北陸本線、北陸自動車道、外環状道路海側幹線等の広域交通網が通過している。 県庁が立地する周辺一帯は、金沢の新都心と位置づけられている。	
<b>人口動向</b>	<b>【人口・世帯動向】</b> ・人口、世帯数ともに堅調な伸びを示しており、20年間で人口は約12,000人、世帯数は約9,000世帯増加している。  <b>【年代構成】</b> ・都市全体と比べて年少人口比率は約16%と高く、高齢人口比率は約13%と平均水準を下回っている。	
<b>土地利用</b>	<b>【土地利用現況】</b> ・都市的土地利用が約8割、自然的土地利用が約2割という構成になっている。 ・住宅用地の割合が約24%、道路用地が約21%となっているほか、商業用地が約12%を占めている。	<b>【開発動向】</b> ・北陸新幹線、外環状道路海側幹線の整備が進展。 ・土地区画整理事業による住宅地整備が進むとともに、商業業務用地としての開発もすすむ。  <b>【法適用現況】</b> ・ほぼ全域が市街化区域であるが、一部、市街化調整区域が点在している。
<b>施設状況</b>	<b>【主な道路交通施設】</b> ・北陸自動車道、外環状道路海側幹線、50m道路、金石街道、JR金沢駅、北陸鉄道浅野川線  <b>【主な公園緑地施設】</b> ・県営まめた簡易グラウンド、駅西中央公園、姉妹都市公園	<b>【主な公共公益施設】</b> ・石川県庁、金沢市中央卸売市場、金沢市民芸術村、産業振興センター、石川県立中央病院  <b>【主な地域資源】</b> ・犀川、浅野川
<b>住民意向</b>	<b>【生活環境満足度】</b> (満足度が比較的高い項目) ・買い物の便利さ ・通勤の便利さ  (満足度が比較的低い主な項目) ・文化・教養施設の整備状況	<b>【地域の課題点】</b> ・防犯対策 ・交通事故に対する安全対策  <b>【地域の魅力】</b> ・買い物に便利  <b>【地域の将来像】</b> ・住宅地と農地などの自然環境が調和した地区 ・閑静な戸建て住宅を中心とした地区
<b>主な課題等</b>	<b>【主な課題】</b> ・新都心としての機能充実 ・都心部との連携 ・公共交通体系の強化 ・新幹線開業を見据えた金沢駅の交通結節点機能強化 ・緑被率の減少	<b>【ポイント】</b> ・都心軸への広域業務機能の集積 ・新幹線開業を見据えた駅西広場の再整備 ・職住近接型で質の高い居住環境整備 ・新しい交通システムの導入検討 ・緑地環境の充実 ・洗練された近代的まちなみの形成
<b>テーマ</b>	広域都市機能が集積する活気あふれる金沢駅西新都心 (現行のまちづくりテーマ： 新都心形成による近代的金沢の創出)	

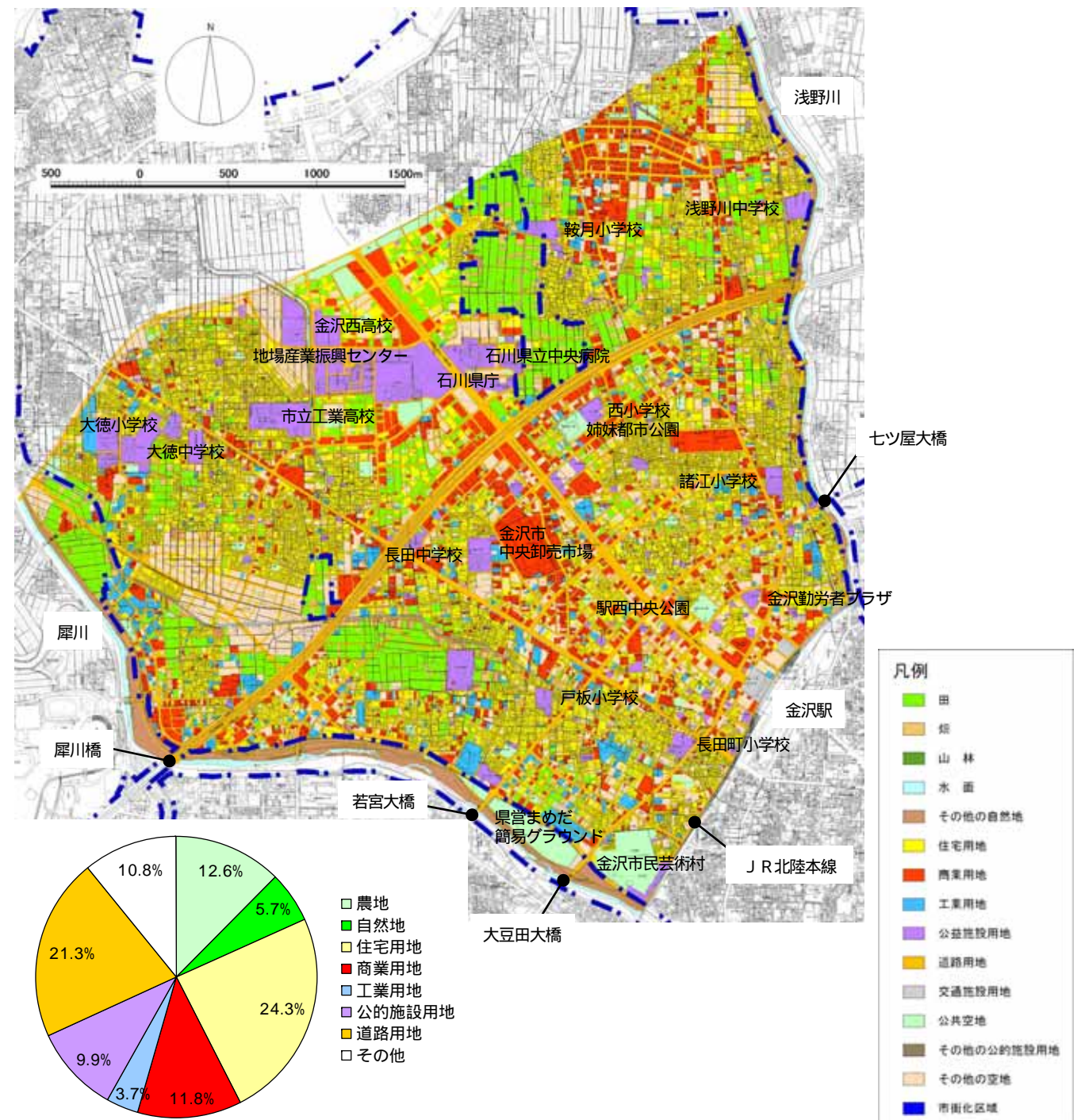
【人口・世帯動向】



【年代構成】

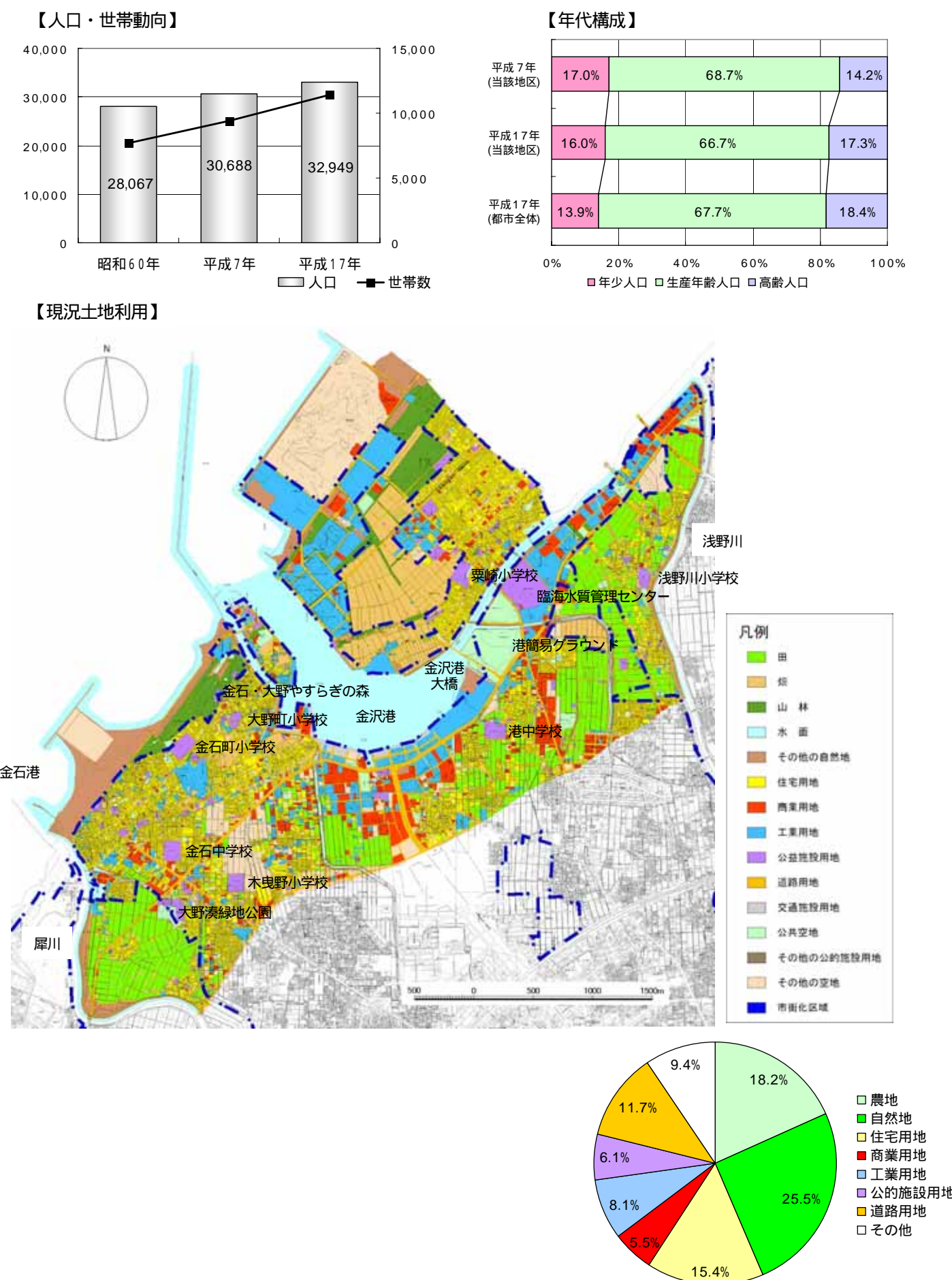


【現況土地利用】



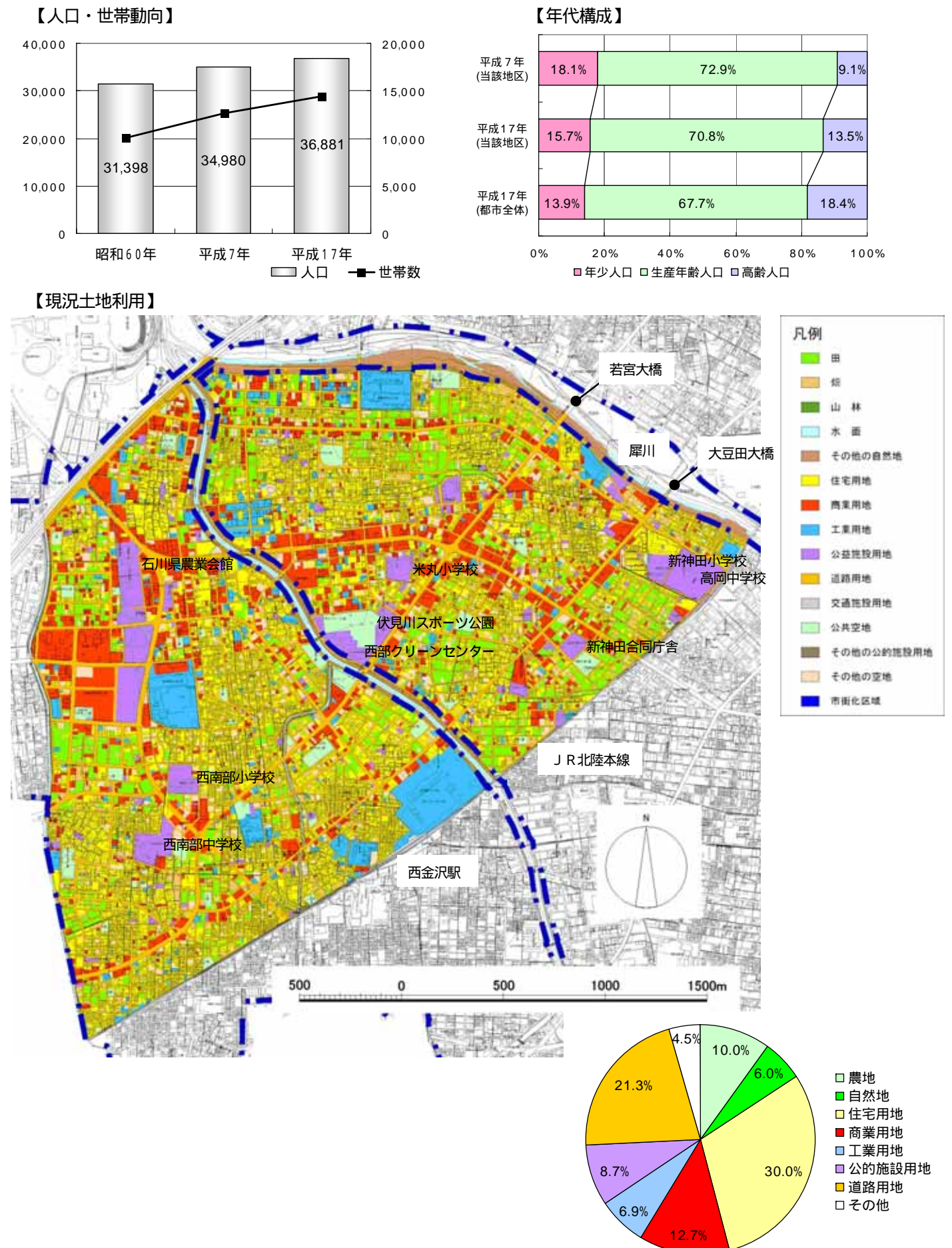


<b>12. 臨海地域</b>		<b>【位置図】</b> 
<b>地域の概要</b>	<p>金沢港及び日本海に臨み、金沢の海の玄関口にあたる地域である。金沢港周辺では、港湾関係の大型施設等が集積しており、金石・大野地区には、北前船の寄港地として栄えた歴史的街並みが形成されている。</p> <p>また、五郎島地区は、金沢を代表する農業地域の一つである。</p>	
<b>人口動向</b>	<p><b>【人口・世帯動向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人口、世帯数ともに堅調な伸びを示しており、20年間で人口は約4,900人、世帯数は約3,700世帯増加している</li> </ul> <p><b>【年代構成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市全体と比べて高齢人口比率は平均水準であり、年少人口比率は約16%と高い。</li> </ul>	
<b>土地利用</b>	<p><b>【土地利用現況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市的土地利用が約6割、自然的土地利用が約4割という構成になっている。</li> <li>自然地の割合が約26%、農地が約18%となっているほか、工業用地が約8%を占めている。</li> </ul>	<p><b>【開発動向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金沢港多目的国際ターミナルの整備と周辺道路の整備・開通、工業用地の整備が進められた。</li> <li>木曳野土地区画整理事業による住宅地整備が進展。</li> </ul> <p><b>【法適用現況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幹線の沿道の大半は市街化区域であるが、農地や海浜部は市街化調整区域に指定されている。</li> </ul>
<b>施設状況</b>	<p><b>【主な道路交通施設】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外環状道路海側幹線、50m道路、金石街道、(主)松任宇ノ気線、北陸鉄道浅野川線</li> </ul> <p><b>【主な公園緑地施設】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大野お台場公園、金石・大野やすらぎの森湊運動公園、西部緑道</li> </ul>	<p><b>【主な公共公益施設】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金沢港、金石港、からくり記念館</li> </ul> <p><b>【主な地域資源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海岸、加賀野菜「五郎島金時」</li> </ul>
<b>住民意向</b>	<p><b>【生活環境満足度】</b> (満足度が比較的高い項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日照・通風</li> </ul> <p>(満足度が比較的低い主な項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化・教養施設の整備状況</li> <li>スポーツ施設の整備状況</li> <li>河川の整備状況</li> <li>福祉施設の整備状況</li> <li>公園・緑地の整備状況</li> </ul>	<p><b>【地域の問題点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害に対する安全対策</li> <li>道路の整備</li> <li>防犯対策</li> </ul> <p><b>【地域の魅力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>買い物に便利</li> <li>地域の連帯感</li> <li>自然が豊富</li> </ul> <p><b>【地域の将来像】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住宅地と農地などの自然環境が調和した地区</li> <li>閑静な戸建て住宅を中心とした地区</li> </ul>
<b>主な課題等</b>	<p><b>【主な課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金石埋立地の活用</li> <li>都心軸末端としての拠点性の向上</li> <li>港湾機能の充実</li> <li>外環状道路海側幹線沿道の適正な土地利用及び景観形成の誘導</li> <li>生活、歴史文化、防災のバランス</li> </ul> <p><b>【ポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加賀野菜産地としての優良農地の保全</li> <li>金沢港周辺基盤の整備促進</li> <li>金沢港を活用した産業機能の集積</li> <li>外環状道路海側幹線の整備促進</li> <li>港町の歴史性を踏まえた住環境整備</li> </ul>	
<b>テーマ</b>	<p>金沢港を核とした活力と賑わいのある海の玄関口 (現行のまちづくりテーマ：海の玄関口にふさわしいポートタウンの建設)</p>	





<b>13. 西南部地域</b>		<b>【位置図】</b> 
<b>地域の概要</b>	JR北陸本線、北陸自動車道、犀川、国道8号に囲まれた地域で、住宅、商工業施設等が混在する建物の密集地域である。 また、北陸自動車道金沢西ICが立地しており、西部方面からの金沢都心部への玄関口にあたる。	
<b>人口動向</b>	<b>【人口・世帯動向】</b> ・人口、世帯数ともに堅調な伸びを示しており、20年間で人口は約5,500人、世帯数は約4,400世帯増加している。  <b>【年代構成】</b> ・都市全体と比べて高齢人口比率は平均水準を下回っており、年少人口比率は約16%と高い。	
<b>土地利用</b>	<b>【土地利用現況】</b> ・都市的土地利用が8割強を占め、自然的土地利用は2割に満たない。 ・住宅用地の割合が約30%、道路用地が約21%となっているほか、商業用地が約13%を占めている。	<b>【開発動向】</b> ・特に目立った動向なし  <b>【法適用現況】</b> ・伏見川沿い以外は、市街化区域に指定されている。
<b>施設状況</b>	<b>【主な道路交通施設】</b> ・北陸自動車道 金沢西IC、国道8号、(都)野田専光寺線、(都)小立野古府線、(主)金沢美川小松線、JR北陸本線、JR西金沢駅  <b>【主な公園緑地施設】</b> ・伏見川スポーツ公園	<b>【主な公共施設】</b> ・西部市民体育館、新神田合同庁舎  <b>【主な地域資源】</b> ・犀川、伏見川
<b>住民意向</b>	<b>【生活環境満足度】</b> (満足度が比較的高い項目) ・買い物の便利さ ・住宅地周辺の道路の整備状況  (満足度が比較的低い主な項目) ・振動・騒音	<b>【地域の課題点】</b> ・防犯対策 ・交通事故に対する安全対策  <b>【地域の魅力】</b> ・買い物に便利  <b>【地域の将来像】</b> ・閑静な戸建て住宅を中心とした地区 ・住宅地と農地などの自然環境が調和した地区
<b>主な課題等</b>	<b>【主な課題】</b> ・JT移転跡地の活用 ・西金沢駅の利便性向上 ・緑被率の減少 ・西インター大通りの景観改善	<b>【ポイント】</b> ・西金沢駅西側の基盤整備 ・緑地環境の充実 ・西インター大通りの良好な沿道景観形成
<b>テーマ</b>	住宅と都市型産業が調和する金沢の西の玄関口 (現行のまちづくりテーマ： 広域交通機能を活かした計画的な住工調和エリアの建設)	





14. 西部地域		【位置図】 
地域の概要	<p>地域の西端に位置する日本海に面した地域で、海浜の自然環境を活かしたレクリエーション施設等が立地する。 また、金沢を代表する農業地帯の一つであり、優良農地が広がっているほか、付近には、交通の利便性を活かした工業団地が立地している。</p>	
人口動向	<p>【人口・世帯動向】 ・人口、世帯数ともに堅調な伸びを示しており、20年間で人口は約4,600人、世帯数は約2,800世帯増加している。</p> <p>【年代構成】 ・都市全体と比べて高齢人口比率は平均水準を下回っており、年少人口比率は約19%で14地域の中で最も高い。</p>	
用	<p>【土地利用現況】 ・都市的土地利用と自然的土地利用が半々の割合となっている。 ・農地の割合が約30%を占めて最も高いほか、次いで自然地が約15%となっている。</p>	<p>【開発動向】 ・いなほ工業団地の新たな工業団地が整備された。 ・土地区画整理事業による住宅地整備が進められた。</p> <p>【法適用現況】 ・広範な農地は市街化調整区域に指定されている。</p>
施設状況	<p>【主な道路交通施設】 ・北陸自動車道 金沢西IC、外環状道路海側幹線沿道(主)金沢美川小松線、(県)加賀海浜自転車道 しろさいロード</p> <p>【主な公園緑地施設】 ・西部緑地公園、健民海浜公園、専光寺ふれあいの森</p>	<p>【主な公共公益施設】 ・犀川左岸浄化センター</p> <p>【主な地域資源】 ・海岸、加賀野菜「源助だいこん」「加賀太きゅうり」など</p>
住民意向	<p>【生活環境満足度】 (満足度が比較的高い項目) ・日照・通風</p> <p>(満足度が比較的低い主な項目) ・文化・教養施設の整備状況 ・医療施設の量と質</p>	<p>【地域の課題点】 ・防犯対策 ・災害に対する安全対策 ・交通事故に対する安全対策</p> <p>【地域の魅力】 ・買い物に便利 ・自然が豊富 ・公園・緑地が充実</p> <p>【地域の将来像】 ・住宅地と農地などの自然環境が調和した地区 ・閑静な戸建て住宅を中心とした地区</p>
主な課題等	<p>【主な課題】 ・外環状道路海側幹線沿道の適正な土地利用及び景観形成の誘導 ・白山市方面アクセスの円滑化 ・農地と住宅・工業地とのすみわけ</p>	<p>【ポイント】 ・外環状道路海側幹線の整備促進 ・(仮)白山ICの設置を見据えた流通業務地の形成 ・レクリエーション環境の充実 ・加賀野菜産地としての優良農地の保全 ・海岸線、農業景観の保全</p>
テーマ	<p>外環状道路を基軸に、都市近郊農業と調和した住宅・工業・レクリエーション地域 (現行のまちづくりテーマ： 外環状線を軸とした計画的な住宅・工業エリアの建設)</p>	

